

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会【第1回石川県部会】

平成28年 6月 1日(水)
15:00 ~ 16:30
金沢河川国道事務所
2階会議室

<議事次第>

1. 開会
2. 石川県部会長挨拶
3. 議題
 - (1) 平成27年度北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会（報告）
 - (2) 平成28年度の取組予定
 - (3) その他 意見交換等
4. 閉会

<配付資料>

- ・ 議事次第
- ・ 配席図
- ・ 出席者名簿
- ・ (参考資料) 平成27年度北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 抜粋資料
設立趣旨、規約・会員名簿
平成27年度石川県部会の取り組み(参考資料)
平成28年度の活動予定(石川県部会)
情報発信・情報共有【Webポータルサイト】
協議会の進め方
- ・ (参考資料) 平成27年度建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて
- ・ (資料1) 平成28年度現場見学先候補リスト
- ・ (資料2) 平成28年度実習生募集のお知らせ
- ・ (資料3) 石川県部会メーリングリスト

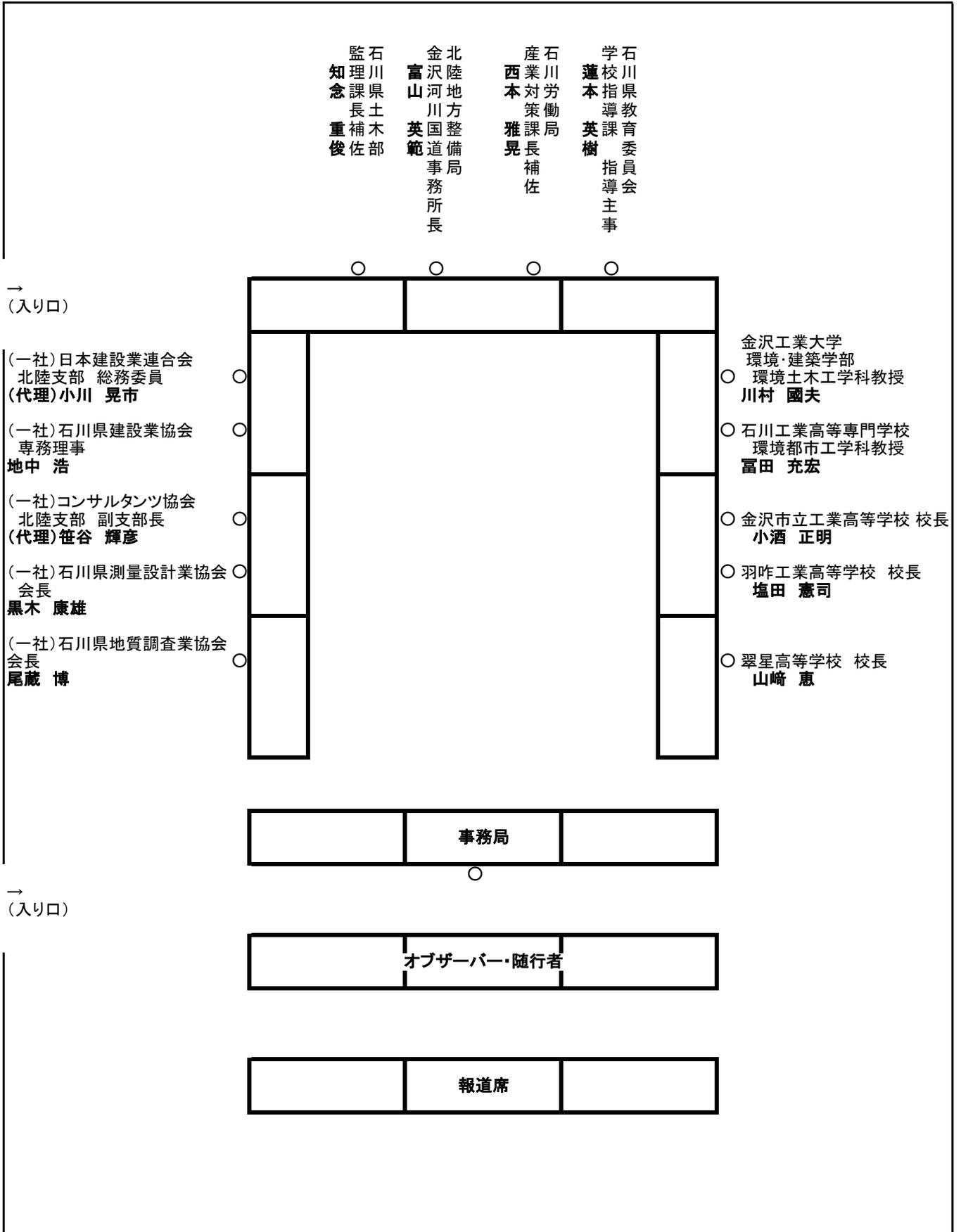
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会(第1回石川県部会) 出席者名簿

◎部会長

	所属	役職	氏名	出欠	代理出席者
1	(一社)日本建設業連合会	北陸支部 総務委員	齊藤 武文	代	小川 晃市(清水建設(株)北陸支店)
2	(一社)石川県建設業協会	専務理事	地中 浩	○	
3	(一社)建設コンサルタンツ協会	北陸支部 副支部長	新家 久司	代	笹谷 輝彦(運営委員)
4	(一社)石川県測量設計業協会	専務理事	黒木 康生	○	
5	(一社)石川県地質調査業協会	会長	尾蔵 博	○	
6	(一社)日本道路建設業協会	北陸支部 幹事	北川 隆明	欠	
7	金沢大学理工研究域環境デザイン学類	教授	斎藤 武久	欠	
8	金沢工業大学環境・建築学部 環境土木工学科	教授	川村 國夫	○	
9	石川工業高等専門学校環境都市工学科	教授	富田 充宏	○	
10	石川県立小松工業高等学校	校長	佐藤 文夫	欠	
11	金沢市立工業高校	校長	小酒 正明	○	
12	石川県立羽咋工業高等学校	校長	塩田 憲司	○	
13	石川県立翠星高等学校	校長	山崎 恵	○	
14	石川労働局	職業対策課 課長補佐	西本 雅晃	○	
15	建政部	計画・建設産業課長補佐	池田 潤	欠	
16	金沢河川国道事務所	事務所長	富山 英範◎	○	
17	北陸技術事務所	事務所長	佐藤 正之	欠	
18	石川県	土木部 監理課長	手井 博史	代	念介 重俊(監理課長補佐)
19	石川県教育委員会	学校指導課 指導主事	蓮本 英樹	○	

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会【石川県部会】 配席図

金沢河川国道事務所 2F 会議室



平成27年度 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

日時：平成28年3月24日(木)10時00分～12時00分

場所：北陸地方整備局 4階 共用会議室

富山河川国道事務所 3階 会議室

※新潟・富山の両会場によるテレビ会議

<議事次第>

1. 開会

2. 挨拶 北陸地方整備局長

3. 出席者の紹介

4. 議題

- 1) 建設分野における雇用管理改善に向けて 新潟労働局
- 2) 各県労働局からの情報提供 各県労働局
- 3) 各県部会の開催報告
- 4) 平成27年度 建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて
- 5) 各部会からの報告事項及び提案議題

【報告事項】

- ①平成27年度 富山県インターンシップ実施結果等 富山県
- ②普通科高等学校（七尾東雲高校・小松大谷高校）教員を対象にした
現場見学会感想文 北陸地方整備局
- ③現場見学後のアンケート調査について 北陸地方整備局

【提案議題】

- ①建設界の役割や仕事の魅力を効果的に伝えるためのポイントについて
- ②就職活動中の学生等を対象としたホームページコンテンツの作成について
- ③入口戦略（建設系大学や高専への入学者数）の充実
- 6) 平成28年度の活動予定（新たな取り組み等）
- 7) その他確認事項

5. 閉会

<配付資料>

議事次第

配席図・出席者名簿

- (資料1) 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 設立趣旨
- (資料2) 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 規約
- (資料3) 各県労働局からの情報提供
(各県概要) 各県部会の開催報告
- (資料4-総括、資料4-参考資料) 平成27年度 建設界の担い手確保・育成に関する取り組み
について
- (資料5) 各機関からの議題及び報告事項
- (資料6-総括、資料-6) 平成28年度の活動予定（新たな取り組み等）
- (参考資料) その他確認事項

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

設立趣旨

北陸地方における建設界では、少子高齢化の進展や労働人口の減少に加え、近年の建設投資の大幅な減少による受注競争の激化等により、建設業者数や建設業就業者数も減少しており、とりわけ離職者の増加や若年入職者の減少等の厳しい状況に直面している。また、これらの状況については、これまで建設界の持つ魅力を建設界全体として発信することや建設界に対する好印象を醸成することが、うまくできてこなかったことも主因の一つと考えられる。

このような状況下においては、将来にわたる社会資本の整備・維持管理及びその品質確保や、冬期の除雪を含む災害時の対応等を通じた地域の維持等に支障が生じることが懸念されることから、地域における担い手の確保・育成は極めて重要な課題となっており、平成26年には、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」、「建設業法」「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」のいわゆる担い手三法が改正され、建設工事の担い手の育成と確保について、建設業者団体や国等の責務が明確化されたところである。

上記をふまえ、北陸地方における建設界の担い手をめぐる現状や課題に関する認識を共有し、建設界の担い手不足に対し、建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となって担い手の確保・育成の取組みを推進することを目的としたプラットフォームとして、「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」を設置する。

「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」規約（案）

（設置）

第1条 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（目的）

第2条 協議会は、北陸地方における建設界の担い手をめぐる現状や課題に関する認識を共有し、建設界の担い手不足に対し、建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となって担い手の確保・育成の取組みを推進することを目的とする。

（構成員）

第3条 協議会の構成員は、別紙1のとおりとする。

（座長）

第4条 協議会の座長は、北陸地方整備局長をもってあたる。

2 座長に事故があるときは、構成員のうちから座長が指名する者が、その職務を代理する。

（会議）

第5条 協議会の会議は、座長が招集する。

2 構成員は、あらかじめ指名した者を代理として会議に出席させることができる。

3 座長が必要と認めるときは、構成員以外の者に対し、協議会に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

（部会）

第6条 地域における特定の課題等について検討を行うため、新潟、富山、石川の各県に部会を置く。

2 各部会は、別紙2に掲げる会員をもって構成する。

3 各部会の部会長は、別紙2のとおりとする。

4 部会長が必要と認めるときは、会員以外の者に対し、部会に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

（事務局）

第7条 会議および部会の庶務は、北陸地方整備局企画部及び建政部が関係機関の協力を得て処理する。

（雑則）

第8条 この規約に定めるもののほか、会議の運営に関する事項その他必要な事項は、座長が定める。

附 則 この規約は、平成26年10月3日から施行する。

附 則 この規約は、平成27年3月17日から施行する。

北陸建設会の担い手確保・育成推進協議会 構成員

	所 属	役 職	氏 名
1	(一社) 日本建設業連合会	北陸支部長	守田—進
2	(一社) 新潟県建設業協会	会長	本間—達郎
3	(一社) 富山県建設業協会	会長	近藤—駿明
4	(一社) 石川県建設業協会	会長	北川—義信
5	(一社) 建設コンサルタンツ協会	北陸支部長	寺本—邦一
6	(一社) 新潟県測量設計業協会	会長	古川—征夫
7	(一社) 富山県測量設計業協会	会長	佐渡—正
8	(一社) 石川県測量設計業協会	会長	新家—久司
9	新潟大学 工学部 建設学科	工学部—建設学科—教授	佐伯—竜彦
10	長岡技術科学大学 環境・建設系	環境・建設系—教授	細山田—得三
11	富山大学 工学部長	工学部長	堀田—裕弘
12	富山県立大学 工学部 環境工学科	工学部—環境工学科—准教授	手計—太一
13	金沢大学 理工研究域 環境デザイン学類	理工研究域—環境デザイン学類—教授	斎藤—武久
14	金沢工業大学 環境・建築学部 環境土木工学科	環境・建築学部—環境土木工学科—教授	川村—國夫
15	長岡工業高等専門学校 環境都市工学科	環境都市工学科長—教授	宮腰—和弘
16	石川工業高等専門学校 環境都市工学科	環境都市工学科—教授	三ツ木—幸子
17	新潟工業高校	校長	小杉—克彦
18	新発田南高校	校長	中島—俊哉
19	富山工業高校	校長	當流谷—正博
20	小松工業高校	校長	佐藤—文夫
21	金沢市立工業高校	校長	小酒—正明
22	新潟労働局	職業安定部長	小松—桂子
23	富山労働局	職業安定部長	岩橋—貴生
24	石川労働局	職業安定部長	佐藤—雅文
25	◎北陸地方整備局	局長	藤山—秀章◎
26	北陸地方整備局	企画部長	小口—浩
27	北陸地方整備局	建政部長	藤田—昌邦
28	信濃川河川事務所	事務所長	目下部—隆昭
29	新潟国道事務所	事務所長	近藤—淳
28	○北陸地方整備局 建政部長	地方事業評価管理官	
3029	○富山河川国道事務所	事務所長	松井—健一
3130	○金沢河川国道事務所	事務所長	金澤—文彦
3231	北陸技術事務所	事務所長	佐藤—正之
3332	新潟県	土木部長	高橋—猛
3433	新潟県教育委員会	高等学校教育課長	飯田—昭男
3534	新潟県教育委員会	義務教育課長	大野—雅人
3635	富山県	土木部長	林—正之
3736	富山県教育委員会	県立学校課長	荒木—義雄
3837	石川県	土木部長	常田—功二
3938	石川県教育委員会	教育次長 兼 学校指導課長	竹中—功
4039	新潟市	土木部長	大沢—藤雄
4140	北陸地質調査業協会	理事長	大谷—政敬
4241	(一社) 日本道路建設業協会北陸支部	支部長	河江—芳久

◎ : 座長

○ : 部会長

新潟県部会会員名簿

	所 属	役 職	氏 名
1	(一社) 日本建設業連合会	北陸支部 総務委員	宇野—正修
2	(一社) 新潟県建設業協会	常務理事	岡村—幸弘
3	(一社) 建設コンサルタンツ協会	北陸支部 副支部長	中俣—孝
4	(一社) 新潟県測量設計業協会	副会長	山岸—陽一
5	新潟大学 工学部 建設学科	工学部—建設学科—教授	佐伯—竜彦
6	長岡技術科学大 学環境・建設系	環境・建設系—教授	細山田—得三
7	長岡工業高等専門学校 環境都市 工学科	環境都市工学科長—教授	宮腰—和弘
8	新潟工業高校	校長	小杉—克彦
9	新発田南高校	校長	中島—俊哉
10	新潟労働局	職業安定課長	平田—保
11	○北陸地方整備局	地方事業評価管理官	今野—和則— ◎
12	建政部	建設産業調整官	吉川—文義
13	信濃川河川事務所	事務所長	目下部—隆昭
14	新潟国道事務所	事務所長	近藤—淳
15	北陸技術事務所	事務所長	佐藤—正之
16	新潟県	土木部副部長 (監理課長)	高橋—豊
17	新潟県教育委員会	高等学校教育課長	飯田—昭男
18	新潟県教育委員会	義務教育課長	大野—雅人
19	新潟市	技術管理課長	笠巻—孝道
20	(一社) 新潟県地質調査業協会	理事	村尾—治祐
21	(一社) 日本道路建設業協会北陸支部	幹事長	赤池—利孝

◎○ : 部会長

富山県部会会員名簿

	所 属	役 職	氏 名
1	(一社) 日本建設業連合会	北陸支部 広報委員	永田—健二
2	(一社) 富山県建設業協会	常務理事	生駒—秀和
3	(一社) 建設コンサルタント協会	北陸支部 副支部長	吉田—攻
4	(一社) 富山県測量設計業協会	副会長	栄—知之
5	富山大学 工学部長	工学部長	堀田—裕弘
6	富山県立大学 工学部 環境工学科	工学部—環境工学科—准教授	手計—太一
7	富山工業高校	校長	當流谷—正博
8	富山工業高校	土木工学科長	梶山—寛
9	桜井高校	校長	高岡—陽一
10	桜井高校	土木科学科長	稲垣—利治
11	高岡工芸高校	土木環境科主任	内山—純治
12	富山労働局	職業対策課長	森本—滋
13	建政部	計画・建設産業課長	荒川—雅之
14	○富山河川国道事務所	事務所長	松井—健一—◎
15	北陸技術事務所	事務所長	
1516	富山県	土木部参事・建設技術企画課長	村岡—清孝
1617	富山県教育委員会	県立学校課長	荒木—義雄
1718	富山県地質調査業協会	会長	津嶋—春秋
1819	(一社) 日本道路建設業協会	北陸支部 幹事	林—和夫

◎ : 部会長

石川県部会会員名簿

	所 属	役 職	氏 名
1	(一社) 日本建設業連合会	北陸支部 総務委員	齊藤—武文
2	(一社) 石川県建設業協会	常務理事	地中—浩
3	(一社) 建設コンサルタント協会	北陸支部 副支部長	新家—久司
4	(一社) 石川県測量設計業協会	専務理事	黒木—康生
5	金沢大学 理工研究域 環境デザイン学類	理工研究域—環境デザイン学類—教授	斎藤—武久
6	金沢工業大学 環境・建築学部 環境土木工学科	環境・建築学部—環境土木工学科—教授	川村—國夫
7	石川工業高等専門学校 環境都市工学科	環境都市工学科—教授	三ツ木—幸子
8	小松工業高校	教頭	林—純一郎
9	金沢市立工業高校	校長	小酒—正明
10	金沢市立工業高校	教頭	
11	石川労働局	職業対策課 雇用開発第一係長	北川—徹
12	建政部	計画・建設産業課 課長補佐	池田—潤
13	○金沢河川国道事務所	事務所長	金澤—文彦 ⊙
14	北陸技術事務所	事務所長	
1415	石川県	土木部 監理課 課長補佐	川幡—武文
1516	石川県教育委員会	学校指導課 課長補佐	平木—外二
1617	石川県教育委員会	学校指導課 指導主事	蓮本—秀樹
1718	(一社) 石川県地質調査業協会	会長	尾蔵—博
1819	(一社) 日本道路建設業協会	北陸支部 幹事	北川—隆明
1920	翠星高等学校	校長	山崎—恵
2021	羽咋工業高等学校	校長	下根—浩明

⊙○ : 部会長

平成27年度 建設界の担い手確保・育
成に関する取り組みについて

参考資料

【石川県部会】

平成28年 3月24日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

北陸管内の9校11学部の建設系大学、高専に訪問して、建設コンサルタントの認知度向上を目的としたPR活動を毎年度行っています。

平成27年度は、建設コンサルタントPR冊子「建設コンサルタントってどんな仕事」を9校合計で750部配布しました。また、要望のあった5校を対象に、「建設コンサルタントの業務」「キャリアプラン」等について、パワーポイントやビデオを用いた説明会を開催(1校は日程調整中)しています。

説明会開催校で実施したアンケート調査では、「説明会により建設コンサルタントの業務をより深く理解することができた」との評価をいただいております、今後も継続的に説明会を開催していくこととしています。

■建コンPR冊子



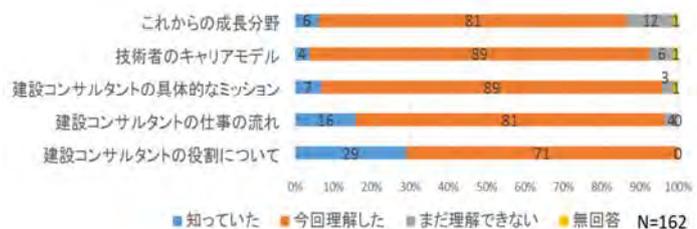
表.建設系大学等へのPR活動状況

写真1.長岡技術科学大学説明会

写真2.金沢大学説明会

学校名	学部・学科	PR冊子配布	説明会
新潟大学	工学部 建設学科	5月21日	50部
	農学部 農業環境	5月26日	50部
	理学部 地質科学科	5月15日	50部
	キャリアセンター		50部
長岡技術科学大学	環境・建設系	5月14日	100部
新潟工科大学	建築学科	5月13日	30部
長岡高等専門学校	環境都市工学科	10月19日	50部
富山県立大学	工学部環境工学科	5月13日	60部
金沢大学	理工学域 環境デザイン学類	2月18日 or 19日調整中	100部
			7月21日 2月18日 or 19日
金沢工業大学	環境土木工学科	5月14日	60部
石川県立大学	生物資源環境学部	5月14日	100部
石川高等専門学校	環境都市工学科	5月14日	50部

図.説明会開催校における建設コンサルタント業務の理解度



未来の担い手へ確保のための取り組み
～「建コン協北陸支部技術・研究発表会」への大学生からの参画～

建設コンサルタンツ協会北陸支部業務・研究発表会は一昨年、建設コンサルタンツ協会50周年記念事業の一環として開催されました。その後、建設コンサルタンツ協会北陸支部会員の業務における優れた成果や研究開発成果の発表を通じて、お互いの技術の研鑽を図ることを目的として継続的に開催することとなり、実施したものです。

本発表会は、新潟市を会場としたことから長岡技術科学大学、新潟大学を対象に学生講演を依頼しました。

両大学から学生を推薦していただき、業務・研究発表会で発表していただきました。

8月7日の当日は、支部会員、大学生並びに行政機関の方々も含め、110名のご出席を頂きました。

今後も、官学産連携して開催し、自己研鑽は勿論、未来の担い手を確保する観点からも関連大学への情報発信を引き続き行っていきたいと考えております。

テーマ	発表者
ビッグデータを活用した新たな道路交通指標の検討	エヌシーエー株式会社 総合計画部 ○池田 薫・山村裕章・川端光昭
道路除雪のあり方に関する一考察	開発技建株式会社 調査計画部 ○飯田雅之・佐藤吉一・佐藤勝昭
事故対策(右折分離ゼブラ帯)による効果評価方法の検討	開発技建株式会社 交通計画部 調査課 長谷川 克・原 弘行・○矢吹 祐輔・坂庭 宏樹
ASR劣化により構造的破断が確認されたPCT桁の耐荷重評価	株式会社国土開発センター 設計事業部設計1部 ○亀田浩昭・浦 修造・笹谷謙彦
小流量・低落差を克服した水路対応型水車の開発と収益性の高いビジネスモデルの構築	株式会社新日本コンサルタント 市森友明・阿曾克司・○吉野昌吾
北陸新幹線開業(分離駅)に合わせた公共交通整備検討	株式会社新日本コンサルタント 設計計画部都市デザイン部都市計画グループ ○大門健一・道水 健
3次元形状情報を活用したCIM活用誘行支援業務	大日本コンサルタント株式会社 ICT 統括センター、技術統括部 櫻井和弘・和泉 繁・○神原由紀
手取川右岸集落における広域斜面危険度判定マップの適用性について	株式会社日本海コンサルタント 技術事業本部 防災構造部 ○東 寛和・西野尚志・荒木龍介・橋本隆司・小間井孝吉・川村圓夫



演題:長期暴露したコンクリートにおけるセメント水和物の化学分析と炭酸化機構に関する検討
発表者:新潟大学 工学部 建設学科 高市大輔 くん



演題:道の駅を活用した地域活性化の取り組み事例
発表者:長岡技術科学大学 都市交通研究室 谷澤明日菜さん

未来の担い手へ確保のための取り組み ～「全国の建コン協若手技術者」と大学生とのワールドカフェ開催～

(一社)建設コンサルタツ協会北陸支部
参考資料③

『業界展望を考える若手技術者の会』(以下、若手会)は、全国の若手技術者が一同に会し、業界の諸問題や将来像、改善行動について議論を交わす場として、建設コンサルタツ協会総務委員会により設置されました。本会は、月1回の頻度で開催されていますが、この度、北陸で開催することになったため、北陸支部若手技術者ワーキンググループから若手会に参加しているメンバーが主体となって企画・運営しました。

『業界展望を考える若手技術者の会in北陸』は、平成27年8月28日(金)～29日(土)の2日間において、石川県金沢市のITビジネスプラザ武蔵、石川四高記念文化交流館で開催しました。内容は、下記のとおり3部構成とし、1部及び3部は、若手会のメンバーでのグループ討議、2部は、地元若手技術者や大学生を交えた意見交換会としました。

■1部 グループ討議

- ①近畿支部の活動報告
- ②建コン将来ビジョンに関するグループワーク
- ③グループ発表
- ④全体討議

■2部 建コン ワールドカフェ in KANAZAWA ～みんなの「しごと観」と建コンの未来～

(1) 話題提供

- ①北陸地方整備局による技術者育成支援の取組
北陸地方整備局企画課 杉本 敦 氏
- ②業界展望を考える若手技術者の会について
㈱オリエンタルコンサルタツ 伊藤 昌明
- ③建コン北陸支部での技術者育成支援の取組
開発技建㈱ 竹内 聡
- ④建コン企業が実施する公民連携事例の紹介
㈱日本海コンサルタント 片岸 将広



(2) ワールドカフェによる意見交換

- ①ワールドカフェの概要説明(片岸)
- ②テーマ1に関する対話「今の仕事や働き方をどのように感じていますか？」
- ③テーマ2に関する対話「みんなに羨ましいと思われる建コンの姿とは？」
- ④印象に残ったことの書き出しと全体共有



■3部 総括グループ討議

地域を守る事業を未来の担い手へPR ～「小学校出前講座」のご案内～

(一社)建設コンサルタツ協会北陸支部
参考資料④

平成16年より、北陸支部管内の小中学校を対象に出前講座を実施しております。これは、社会資本整備の必要性について理解を深めるとともに、子供たちの将来の職業選択の一つとして、建設コンサルタツ業の認知度を高める事を目的として行っております。各年度の初めに、「出前講座」のチラシを作成し、関係機関へお知らせを行っており、教育委員会或いは学校からの依頼に基づいて実施しています。

「小学校出前講座」のご案内

建設コンサルタツ協会では、社会貢献活動の一環として小学生のための出前講座を行っています。これは、社会資本整備の必要性について理解を深めるとともに、子どもたちの将来の職業選択の一つとして、建設コンサルタツ業の認知度を高める事を目的としています。講座につきましては、学校の单元と連携した内容を企画致しますので、是非ご利用下さいませ、お願いいたします。



- 対象者 ■
小学校 4～6年生(学年単位・学年単位と別荘可)
- 講座時間 ■
平成27年7月～平成27年12月
- 講師 ■
建設コンサルタツ協会北陸支部 会員(専門18名)
- 費用 ■
全て協会対応予定(講師料・教材等)
- 問い合わせ先 ■
(一社)建設コンサルタツ協会 北陸支部事務局
〒920-0000 石川県金沢市東区東町1-1 東ビル7F
TEL 075-282-3370 FAX 075-282-3371
事務局長 松浦 利夫
広報部長 松本 未代(090-2527-8999)

一般社団法人 建設コンサルタツ協会 北陸支部

小・中学生のための出前講座会実績

開催日	開催地区	講演テーマ
第1回 (2016.10.13)	新潟 (新潟市立本戸小学校)	「家族は人でつながっている」
第2回 (2017.12.5)	石川 (金沢市立森本中学校)	「金沢の偉大な土木技術者 八田勇一」
第3回 (2019.2.22)	富山 (南砺市立城端中学校)	「建設コンサルタツって何ぞき?」
第4回 (2019.6.13)	新潟 (新潟市立上山中学校)	「まちづくり コンパクトシティ」
第5回 (2019.10.2)	新潟 (新潟市立上山中学校)	「11月1日の都市交通」
第6回 (2019.11.8)	石川 (金沢市の南中学校)	「金沢の木造建築財団」
第7回 (2020.6.9)	新潟 (新潟市立上山中学校)	「これからのまちづくりに使われる電気」
第8回 (2020.10.11)	新潟 (新潟市立上山中学校)	「交通・防災・福祉」「公園・自然環境」
第9回 (2022.1.13)	金沢 (金沢市立立木中学校)	「市民のまのなりたち」『環境と水の歴史と再生』
第10回 (2023.11.16)	新潟 (新潟市立大形小学校)	「身近なところから『環境』について考えてみよう」
第11回 (2024.11.26)	新潟 (新潟市立大形小学校)	「身近なところから『環境』について考えてみよう」
第12回 (2024.12.11)	新潟 (新潟市立大形小学校)	「建設コンサルタツの仕事の役割」「学校を通う創造的探検体験(造形・楽譜)」
第13回 (2025.6.24)	新潟 (新潟市立大形小学校)	「身近なところから『環境』について考えてみよう」
第14回 (2025.9.19)	新潟 (新潟市立大形小学校)	「身近なところから『環境』について考えてみよう」

問い合わせ先
(一社)建設コンサルタツ協会
北陸支部事務局
〒920-0066 新潟市中央区東光町6-1 東ビル7F
TEL 075-282-3370
FAX 075-282-3371
事務局長 松浦 利夫
広報部長 松本 未代(090-2527-8999)



新潟市立大形小学校「環境」等について授業風景



平成26年度において、建設コンサルタント業務を紹介する動画として「教えて!ケンコンさん～建設コンサルタントの仕事と魅力～」を製作し、YouTubeへのアップ、支部HPへのアップ、支部の名刺にQRコードの表記など、効果的にPR活動を行った。
平成27年度においても、建コンPR動画第2弾として、「教えて!ケンコンさん!～まちの施設を調べよう～」と題して、地元のアイドルを活用し、次のことをコンセプトとして、現在作成中です。

①観光Map感覚で見ることができること。②地元アイドルの知名度を活用して多くの閲覧が期待できること。

完成後は、昨年同様に様々なイベントでの放映はもちろん、国土交通省北陸地方整備局、新潟県、富山県及び石川県から後援を頂き、北陸支部管内の高等学校224校へ動画のチラシ等を配布し、建設コンサルタントの仕事と魅力を紹介する予定としています。これからも建設界の担い手確保のため、積極的に取り組んでいきます。



【建コンPR動画を活用した広報活動】

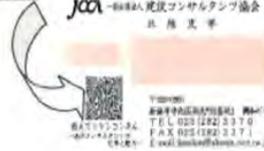
- 建コンPR動画を「YouTube」で公開
- 建コンPR動画は、各支部、各会員会社でも使用可能。また、独自版に改良も可能。
- 上記建コンPR動画のチラシを北陸支部管内の224校の高等学校に配布し、学生にPRした。

教えて!ケンコンさん
～建設コンサルタントの仕事と魅力～



【名刺を活用した広報活動】

- 名刺上のQRコードからスマホでの読み取りによりYouTubeの動画サイトへリンク



金沢大学の学生が、北陸電力(株) 富山新港火力発電所LNG1号機
建設工場の工事現場を見学しました。

北陸建設界の担い手
確保・育成推進協議会

平成27年9月29日、(一社)日本建設業連合会北陸支部は、金沢大学理工学域環境デザイン学類(旧土木建設工学科)の学生を対象とし、北陸電力(株) 富山新港火力発電所LNG1号機建設工事現場見学会を開催した。
今回の見学会は、日建連による「担い手の確保・育成」活動の一環として、建設業の魅力、やりがいの発信、正しいイメージの定着を目的に開催した。

当日は、大学1年生から、大学院2年生までの計23人が北陸電力(株)建設所次長、明石秀司氏に事業の概要説明を受けたのち、土木建築5JVの現場を見学した。建設現場は技術、工法の見本市のようであり、工事担当者より説明を受け、目の前でスケールの大きさ、緻密な施工監理、安全管理の一端を垣間見、学生たちは興味深く見学、質問をしていた。女性の学生も7人参加し、建設業界における女性の活躍の可能性も感じ取ってくれたようであった。



全体工事概要説明状況



基礎工事見学状況



場内見学状況



仮設工事状況を見学



岸壁地場内を見学



山留支保工の説明を受ける学生

工業高等学校生徒の現場見学会

(一社)石川県建設業協会

6月22日 石川県立羽咋工業高等学校 建築コース3年 18名



戸板会館 羽咋工業

●現場見学会の感想

- ・とても就職に役に立ったと思う。
- ・建設業界の若手不足を知りました。
- ・一番心に残っているのはやりがいという言葉です。
- ・僕も地図に残る仕事を目標としたい。
- ・授業で体験できないことを学び工事現場は面白いと思いました。

(一社)石川県建設業協会

高校生との意見交換会(工業系・普通科)

8月28日 石川県立七尾東雲高等学校 総合経営学科農業コース 2年 43名



七尾東雲高校

●意見交換会での質問

- ・女性の求人が少ないのではないかと？
- ・大卒と高卒で仕事の内容が異なるのか？
- ・高卒の初任給の金額、昇給のペース、各種手当の有無は？
- ・体力が必要か？
- ・現場での事故や怪我が心配？

平成 27 年度
実施状況写真



H27.6.5測量の日記念事業①



H27.6.5測量の日記念事業②



H27.11.10第36回石川県高等学校測量技術コンテスト③



H27.11.10第36回石川県高等学校測量技術コンテスト④



H27.11.21土曜事業推進事業⑤

H27金沢工大環境土木工学科3年生授業 「進路セミナーⅠ」:建設界から各講師の講義



国土交通省



金沢市役所



建設コンサルタント



地質調査業

平成27年12月21日(月)、「産(石川県建設業協会、建設コンサルタンツ協会、石川県測量設計業協会)・学(金沢大学)・官(金沢河川国道事務所)」の3者が連携し、金沢大学の学生約60名を対象に特別講義を実施しました。講義には、同校の卒業生ら5名を講師として迎え、「建設の仕事(公務員・測量・コンサル・建設)すべて見せます」と題して、能越自動車道七尾氷見道路が開通するまでを事例として、各分野で建設界へ携わってきた経緯、仕事の内容、魅力などを講義いただきました。学生たちは、熱心にメモを取り、理解を深めていたようです。終了後のアンケートでは、「参考になった」、「もっと聞いてみたい、調べたい」という回答を得ました。

特別講義



約60名の学生が聴講



女性技術者への期待や職場環境への取り組みについても紹介

〇特別講義の主な内容

- ・講師のプロフィールと経歴
- ・必要となる資格の概要
- ・分野毎の業務内容
- ・各業種における七尾氷見道路事業との関わり方
- ・仕事のやりがい
- 等・・・

アンケート結果

「参加して興味・関心を持ったこと、もっと知りたいこと、将来に向けて役立ったこと」について、自由記入して頂いた。

- ・一つの道路事業の中で、各業種がどのように関わっているかを、一連の流れで説明頂き、比較して各業種をイメージできた。
- ・自分と近い年齢の若手技術者の話について聞くことができ参考になった。
- ・最近では女性の働きやすい環境になってきていることがわかった。
- ・必要となる資格、スキルを知ることができた。
- ・質疑の時間が、もっとほしかった。
- ・就きたいと思っていた業種以外についても、改めて考えようと思った。



社内若手技術者のインタビュー記事により、世代の近い技術者の声を照会した



講師は、建設界に携わる5名の卒業生等

平成27年10月19日(月)、金沢工業大学「学」と国土交通省「官」が連携し、環境土木工学科1年生を対象に現場見学会を実施しました。参加した学生からは、「写真で見ると実際に見るのは全然違う。利便性が上がったりして多くの人の役に立てる。」「土木も結構女性を受け入れている企業も多いので、今後頑張っていきたい。」などの感想があり、現場の魅力を間近で体感することで、自分達が目指す土木技術者の仕事への理解や自身の将来像をイメージする機会となりました。

①大学での講義

金沢東部環状道路の概要や、現場見学会の説明を実施



②現場見学会

神谷内トンネル(Ⅱ期線)工事の現場を見学



工事概要の説明



施工状況の見学



トンネル掘削機械の説明



集合写真(1班)

1. 学校訪問(5・6月)

- 建設業に一定の就職実績がある普通高校15校を訪問し、学校側の声を集約
→(学校側の声)
ここ最近生徒の目は進学より就職に向いている
建設業を知る機会(現場見学会・企業説明会等)を増やしてほしい

2. 企業ガイダンス(7月)

- 高3生対象のガイダンスにおいて企業のアピールの場を確保
- 参加企業全115社中24社が建設業者(うち協会会員企業10社)
- H28.3卒業予定の高校生1,676名(就職希望者の約7割が参加)



3. 普通科等高校生の現場見学会(8月)

- 県内の普通科等高校生6校19名が参加
- 見学先:ニツ寺橋、神谷内トンネル、金沢城公園、辰巳ダム
→(参加した生徒の声)
建設業のことはよく知らなかったので、貴重な体験になった
企業で働く先輩の意見を聞くことができ、とても興味を持てた



4. 合同企業セミナー・けんせつ小町座談会(10月)

- 建設業に特化した合同企業セミナーや女性の雇用促進や職場環境の改善に向けた基調講演やパネルディスカッションを実施



5. 子供向け土木イベント(10月)

- 「はだしの王国」において土木イベント「目指せ!土木エンジニア」を開催
- 児童とその保護者336名が参加
- 実施内容:測量体験、土木クイズ、重機試乗体験等



6. 親子現場見学会(11月)

- 小学生とその保護者12組25名が参加
- 見学先:辰巳ダム、神谷内トンネル



平成27年8月21日(金)、「産(石川県建設業協会)」・「学(石川県内高校生)」・「官(石川県、金沢河川国道事務所)」の3者が連携し、石川県内の**普通科等高校生を対象に現場見学会**を実施しました。
 県内の普通科、総合経営学科の高校生約20名が、国土交通省金沢河川国道事務所が実施している金沢東部環状道路の神谷内トンネル(Ⅱ期線)工事の現場を見学し、**普段触れる機会の少ない「建設業」の現場を体験**しました。

現場見学会の様子



神谷内トンネル(Ⅱ期線)工事の概要を説明



トンネル工事の施工内容をパネルにて説明



県内高校(7校)の1~3年生が参加



トンネル施工機械(削孔マシン)を稼働し、説明

七尾東雲高校(普通科等高校) 進路指導担当教員を対象に現場見学会を開催

平成27年10月6日(水)に、七尾東雲高校(普通科等高校)の進路指導の先生を対象に輪島道路の現場見学会を開催しました。本見学会は、建設界の担い手確保・推進協議会石川県部会の共通目標である、「保護者や教員をターゲットに建設界の理解、促進を図る」とした入口対策の一環として、取り組んだものです。参加された、先生からは、大変参考になったと、感想を頂きました。

■現場見学会の様子



概要説明

開催日時 平成27年10月6日(火)10:00~11:15
 出席者 七尾東雲高校 教諭 6名
 随行者 吉村工事品質管理官
 健名建設監督官
 説明現場 輪島道路施工中5工事
 (橋梁下部 3工事、函渠工事 1工事、土工事 1工事)
 説明内容
 ・能越自動車道(輪島道路・Ⅱ期)概要説明
 ・工事説明(概要、施工状況等)
 ・一般的な工事現場での話
 ・入社してからの話 etc



現場説明(三井IC)



現場説明(中道路)



現場説明(小泉道路)

平成27年11月27日(土)に、小松大谷高校(普通科等高校)の進路指導の先生を対象に小松地区(河川)の現場見学会を開催しました。本見学会は、建設界の担い手確保・推進協議会石川県部会の共通目標である、「保護者や教員をターゲットに建設界の理解、促進を図る」とした入口対策の一環として、取り組んだものです。参加された、先生からは、大変参考になったと、感想を頂きました。

■現場見学会の様子

上小松低水護岸工事



小松天満宮分水路及び輪中堤工事



■行程

- 9:00 小松大谷高校出発
- 9:15 小松天満宮到着
- 9:15～10:00 工事説明(分水路及び輪中堤工事)
- 10:00 小松天満宮出発
- 10:10 上小松到着
- 10:10～10:40 工事説明(上小松低水護岸工事)
- 10:40 上小松出発
- 11:00 出張所到着
- 11:00～11:45 出張所の概要(屋上)、前川排水機場・逆水門説明
- 11:45 出張所出発
- 12:00 小松大谷高校到着

■先生からの感想

土木現場案内に参加して

先日は吉村様、中山様にはお忙しい中にもかかわらず現場をご案内いただき、誠にありがとうございました。

日頃通っている道なのに、景色に紛れて気付かなかった工事現場をじっくり見学させていただき、改めて色々なことを知ることが出来ました。小松天満宮の分水路工事では、重要文化財の保存と治水対策を両立できるように小松市や関係省庁が長年協議して現在の計画になったとのことでした。完成したら、新たな名所として、百年、二百年後、更にその先へと残って欲しいものです。.....

大いなる自然の力に対して、時として人間は無力です。しかし、その時代、時代における最新の科学技術を用いて、我々の命と財産を守るのが土木・建設にたずさわるものの使命なのでしょう。私たち教育者も志を持った若者の育成に精進していこうと決意を新たにいたしました。今回は貴重な見学をさせていただき、本当にありがとうございました。

将来の担い手を対象に現場見学会を開催

—小松工業高等学校生徒38名が参加—

平成27年12月8日(火)に「H27梯川天神輪中堤他工事」において、小松工業高等学校の建設科2年生38名(男子30名、女子8名)を対象に現場見学会を開催しました。本工事は、今年度試行されている「現場見学会提案・実施モデル工事」の一つであり、その目的は将来にわたる公共工事の品質確保と中長期的な担い手確保とされています。

見学会では受注者が主体となり、梯川の治水の歴史や当該工事の概要などを説明し、工事現場を見学した後、現場に従事している若手社員(男女各1名)により「経験談や仕事への取り組み」について紹介があり、将来の就職先として建設産業を選択してもらうよう熱意のこもったPRの場となりました。

最後に、生徒達からの質問タイムでは、参加者の約7割から質問が出され、建設産業への魅力度アップや自らが社会人になった際のイメージづくりに役立ったのではと感じています。

■現場見学会の様子

梯川の治水の歴史、工事概要の説明



工事現場の見学



若手社員による経験談紹介、PR



■概要

— 現場見学会の概要 —

- 日時 平成27年12月8日(火) 13:30～14:30
- 対象 石川県立小松工業高等学校 建設科2年生38名
- 内容 概要説明(15分) 現場見学(30分) 若手社員による建設業界PR(15)

■アンケート結果

見学会でアンケートを配布し、後日、集約しましたので、いくつか紹介します。

- ①女性も活躍できる職場になってきていると感じた。(現場監督にもなれる。)
- ②建設業の仕事は地図にのるくらい大きな仕事で達成感がある。
- ③汚い、泥臭いイメージがあったがきれいな現場だった。
- ④あらためて土木の素晴らしさに気付いた。地域にとでも貢献できる。 など

工事現場の見学



男女別トイレの設置



生徒達からの質問に対応する社員



平成27年2月28日に能越自動車道 七尾氷見道路事業は小矢部砺波ジャンクションから七尾インターチェンジまでの供用を行い、雨量規制区間等の回避や物流や観光などの発展に効果が期待されています。

平成27年度は 立入防止柵設置等の周辺工事や機能補償工事を行っており 道路管理者や地域住民の方と密接に関係する工事となるため、地域へのきめ細やかな調整や工事施工が必要となります。そんな中でインターチェンジや高架橋に近接する家屋や水田、埋文包蔵地との調整に女性技術者の観点を発揮して現場施工に従事しています。

工事概要

工事名：H27能越道 古屋敷地区整備外1件工事
工期：平成27年7月24日～平成28年3月30日
主な
工事内容：道路改良
道路土工
法面工
法覆護岸工（古屋敷大池）
排水構造物工
舗装工
防護柵工
橋梁附属物工



定期的に発行している『能越道二ユース』掲載状況

〇女性技術者が現場に着任して感じたこと

- ・地域の方が道路事業に関心が高く、それぞれの考えをお持ちであることに驚いた。
- ・現場が広範囲にわたり地元4町会の説明会、現場立ち会い等工事着手前に地域の方や県道市道の道路管理者との調整が多く驚いた。
- ・埋蔵文化財保存の重要性を改めて感じた。

女性の観点での対応と感想

(1) 現場事務所の工夫

地域住民の方が現場事務所へ気軽に足を運べる様に、現場でも挨拶を心掛け、事務所に来られた際には何気ない事でも談笑できるように雰囲気作りに配慮しました。そうした中で今まで気付かなかった事を知る機会が増え、現場を運営する上で良い結果を得る事が出来たと思います。

(2) 工事現場における配慮工夫

現場に従事する作業員の方々とコミュニケーションを図れるように安全祈願のお守りや誕生日会等の企画を発案し実施しました。この事により現場内でも発言する機会が増え、自分の視点で物事を依頼する事ができるようになり現場の雰囲気も明るくなりました。

工事現場は汚くて危なくてつらいといった思いを多くの女性職員や若手技術者が加わることで活気が加わり良い印象に広がっていくことに今後一層期待します。

立ち会い状況



環境改善等取り組み状況



「けんせつフェア北陸in金沢2015」において、担い手の確保、育成の取り組みを推進するため、石川県内の学生を招待

北陸地方整備局・北陸技術事務所

平成27年10月16日(金)、17日(土)において、産・学・官の優れた建設技術を一堂に集め、建設技術者の技術の研鑽・高揚並びに技術情報の交流の場、担い手確保の広報の場として、石川県産業展示館4号館において、「けんせつフェア北陸in金沢2015」を開催しました。

担い手確保、育成の取り組みを推進するため、石川県内の大学、高等専門学校、高等学校の学生を招待し、建設業界の最新技術、とりまく環境、課題等について、みて、ふれて、知る機会を提供しました。



パネルディスカッションを聴講する学生



けんせつ小町座談会の聴講する学生



展示ブースを見学する大学生



国土交通省の事業説明を聞く女子大生



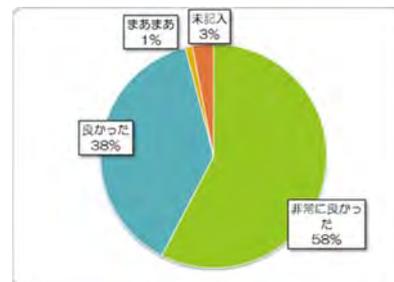
合同企業セミナーに参加する高校生



民間ブースで説明を聞く高校生

アンケート

〇フェア全体の印象（学生）



学生招待における印象は、「非常に良かった」が58%、「良かった」が38%を示しており、理由として「出展者の説明が親切・丁寧で分かり易かった」、色々な体験ができ楽しめた」が全体99件中43件の回答となっている。



無人化施工技術を体験する高校生



屋外展示ブースを見学、体験する学生

開催日時 平成27年7月17日(金)
 10:00~11:15
 参加者 輪島市立三井小学校児童 25名
 教師 4名
 施工業者 寺井建設(三井IC下部その1工事)
 小倉建設(三井IC下部その2工事)
 南建設(三井IC下部その3工事)
 実施内容
 ・能越自動車道概要説明(構造、進捗状況、役割等)
 ・工事説明
 ・建設機械(BH)試乗
 ・埋蔵文化財調査説明
 主任監督員の役割
 事業(能越自動車道)概要説明



概要説明(主任監督員)



工事説明(施工業者)



埋文説明(埋文センター)



BH試乗体験



集合写真

開催日時 平成27年11月28日(土)
 9:10~10:50
 参加者 羽咋郡宝達志水町立樋川小学校
 5・6年生児童 39名 教師 3名
 実施業者 小倉建設(株)
 中道路その2工事
 実施内容
 ・輪島道路(能越自動車道)概要説明
 ・工事説明
 ・建設機械(BH)試乗
 ・質問、感想等



BH試乗



BOX内にて説明



ドローン実演



質問・感想



集合写真

能越道工事を見学
 宝達志水・樋川小児童
 宝達志水町樋川小の、
 6年生約40人は28日、輪島
 市三井町で、能越自動車道
 輪島道路の建設工事現場を
 見学した。
 国土交通省金沢河川国道
 事務所の職員や現場作業員
 らが道路の構造などを紹介
 した。児童はバックホウの
 乗車体験も楽しんだ。

北国新聞 H27.11.29

樋川小の児童50名が参加
 輪島道路で現場見学会
 北国新聞は11月28日、輪島市三井町で、能越自動車道輪島道路の建設工事現場を見学した。宝達志水町立樋川小学校の6年生約40名は、国土交通省金沢河川国道事務所の職員や現場作業員らから道路の構造などを紹介された。児童はバックホウの乗車体験も楽しんだ。現場では、建設機械の試乗体験も行われた。見学会は、児童らに道路の建設現場を身近に感じてもらおうと企画された。見学会は、児童らに道路の建設現場を身近に感じてもらおうと企画された。見学会は、児童らに道路の建設現場を身近に感じてもらおうと企画された。

建設工業新聞 H27.12.1

実施日時 平成27年8月6日(木)~7日(金)
17日(月)~18日(火)
実習者 金沢市立工業高等学校
土木科 2年生 男子2名
実施業者 石川建設工業(株)
小泉道路その2工事

実施内容

- ・石川建設工業受注工事(作業)説明
- ・現場での施工状況(輪島道路施工中工事)
- ・現場実習(測量作業・BH体験運転)
- ・輪島道路(能越自動車道)概要説明

経緯

金沢建設業協会では、毎年、金沢市立工業高等学校土木科の生徒に対する「工業人養成企業実習」をしている。今年度は、協会会員である石川建設工業(株)に生徒受け入れに対する依頼があり、受注している当該工事に受け入れ依頼があったものである。



概要説明



意見交換



測量実習



現場見学(Co打設)



現場見学(深礎杭)



現場見学(中層混合)



建設機械体験(BH)



建設機械体験(ドローン)

就職応募前職場見学(輪島高校)

開催日時 平成27年8月19日(水)
9:30~10:30
参加者 石川県立輪島高等学校
総合学科 生産システム系列3年生

実施現場 小泉道路その1工事(豊蔵組)

実施内容

- ・能越自動車道(輪島道路)概要説明(構造、進捗状況、役割等)
- ・工事説明(概要、内容、写真による状況)
- ・現場での施工状況
(各工種の施工内容説明、型枠解体作業、鉄筋組立作業の現場見学)

経緯

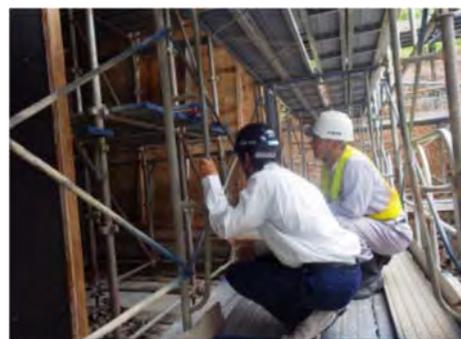
輪島高校から、豊蔵組の一次下請け業者である(株)協建設に就職応募前職場見学の依頼があったので、地元輪島市での事業である工事を見学していただければと、実施しました。



概要説明



施工状況見学



施工状況見学

開催日時 平成27年8月28日(金)
10:00~12:00
訪問学校 石川県七尾東雲高校
総合経営学科農業コース 2
年生
43名(内女子22名)

実施内容

- ・プレゼンテーション
 - ①建設産業紹介ビデオ
 - ②現場の仕事の内容と必要とする技術(南建設)
 - ③社会人になって(東雲高校卒業生)
- ・意見交換会
 - 建設業のイメージ
 - 建設業の仕事に対する質問等
 - 建設会社に期待すること

経緯

石川県建設業協会(七尾鹿島建設業協会、羽咋都市建設業協会)が、今後の建設業の担い手である高校生に、建設業の理解を深めてもらい、相互理解を深めることを目的に実施。(建設系工業高校以外では初めて)

協会から南建設にプレゼンテーションの依頼があったため、輪島道路で施工(2工事)している現場代理人が出席し、現在実施している工事を題材にして説明した。



工業高以外で初
石川県建設業協会は28
日、七尾東雲高で若手技術
者の確保を目的に生徒との
意見交換会「写真」を開い

建設業の魅力を紹介

七尾東雲高で石川県協会

た。工業高以外での開催は
初めてで、協会役員らが総
合経営学科農業コースの2
年生43人に建設業の魅力
を紹介した。
七尾鹿島建設業協会の田
村利会長があいさつし、
南建設(志賀町)の南裕基
専務が公共事業や仕事の内
容を説明した。松原光工業
(金沢市)に勤める同高出
身の山本亮太さんがやりが
いを語った。羽咋都市建設
業協会の小倉淳会長は「建
設業は誇りを持ってできる
仕事です。就職するのを待
つていまずと呼び掛けた。

北国新聞(4面) 平成27年8月29日

インターンシップ(石川県立羽咋工業高校)

実施日時 平成27年10月14日(水)
実習者 石川県立羽咋工業高等学校
建築科 2年生 男子2名 女子5名
実施業者 小倉建設(株)
中道路その2工事
三井IC橋下部その2工事

実施内容

- ・小倉建設受注工事(作業)説明
- ・現場での施工状況(輪島道路施工中工事)
- ・現場実習(番線縛り、鉄筋結束、測量作業、土木シート設置)
- ・輪島道路(能越自動車道)概要説明



測量実習



土木シート設置



番線縛り



鉄筋結束



概要説明



現場説明(BOX)



卒業生より現場説明

◆ 大学・高等専門学校カリキュラムに連続講座を開設

	金沢大学		金沢工業大学		石川工業高等専門学校
対象	1年生	3年生	1年生	3年生	2年生
学期	前期	前期			
概要(予定)	◆ 座学又は現場見学	◆ 座学(建設界連携による公共事業の進め方)	◆ 現場見学	◆ 「進路セミナーⅠ」(建設界の紹介・魅力・特徴等を紹介)	◆ 現場見学・意見交換会

◆ 建設系高校における講座の開設等

	小松工業高等学校		金沢市立工業高等学校		羽咋工業高等学校	
対象	2年生	全学年	2年生	全学年	2年生	全学年
学期	3学期		2学期		2学期	
概要(予定)	◆ 講座(建設業協会との意見交換)	◆ 現場見学	◆ 講座(建設業協会との意見交換)	◆ 現場見学	◆ 講座(建設業協会との意見交換)	◆ 現場見学

※その他、関係機関個別に現場見学等を実施予定。

◆ 工業高校生との意見交換会（県建設業協会）

建設業の現状、高校生が実際の仕事をどのように感じているか、会社に対する期待などについて意見交換会を実施

◆ 高校向け実習等への講師派遣（県測量設計業協会）

石川県高等学校ものづくりコンテスト、石川県高等学校測量技術コンテスト等に講師を派遣

建設系学生・生徒への活動【インターンシップの充実】（石川県部会）

◆ 建設系高校生へのインターンシップ

- 対象学生：建設系学科の高校生
- 実習時期：概ね7月～10月
- 実習場所：県内の企業、官公庁
- 実習内容：勤労観・職業観の育成、就業体験
- 実施機関：建設コンサルタンツ協会、県建設業協会、測量設計業協会、北陸地方整備局
- ※ 従来の業団体との連携に加え、協議会として連携を図り、インターンシップを充実

◆ 工業系高校生の派遣研修（県建設業協会）

- 資格取得のため、工業系高校生を富士教育訓練センターへ派遣

◆ 建設系大学生・高等専門学校生へのインターンシップ

- 対象学生：建設系学科の大学生・高等専門学校生
- 実習時期：概ね7月～10月の範囲
- 実習場所：県内の企業、官公庁
- 実習内容：目的：実践的な職業知識や技術・技能の習得
期 間：実施機関と調整（※金沢河川国道事務所の実施例（H27実績）→1週間～3ヶ月間）
- 実施機関：建設コンサルタンツ協会、県建設業協会、石川県、北陸地方整備局

◆ キャンプ砂防（北陸地方整備局）

- 目的：中山間地域の現状を実際に体験できる場を全国の学生に提供し、地域の抱える問題点、活性化の支援のあり方、防災対策のあり方を学び、中山間地域における砂防の意義・役割を考える。
- 対象学生：砂防を専攻する大学生、又は砂防に関心を持つ大学院・大学・高専の学生
- 実習時期：概ね7月～9月の1週間程度
- 実習場所：北陸地方整備局管内砂防事業所管事務所



- ◆ 「市民見学会」について、石川方面の見学会も検討する (日本建設業連合会北陸支部)
- ◆ 北陸3県全ての高等学校へ「建コンPR動画」のチラシを配布し、建設コンサルタントの「仕事と魅力」の理解促進を図る。「社会貢献活動」の一環として、北陸支部管内の小学校、中学校へ「出前講座」のチラシ等を配布 (建設コンサルタンツ協会北陸支部)
- ◆ 工業系高校の保護者との意見交換会の拡充を図るため、実施高校を拡大して、進路決定に影響力を持つ保護者に建設界のことを知ってもらうため意見交換会を実施。 普
通科高校への意見交換会の拡充を図るとともに、現場見学会を通して各校の普通科高校生に建設産業の社会的役割や魅力について広く理解を求める。 (石川県建設業協会)
小学校のバザー等に建設ブースを設置し、ものづくり教室を実施。
- ◆ 「測量の日」の関連事業を金沢・加賀・能登地区の3小学校で5年生を対象に「緯度経度と日本の測量についてまなぶ」授業を実施。野外授業では、ドローンを使用した授業等を実施予定 (県測量設計業協会)
- ◆ 工業系高校を対象に、地質調査業の魅力伝える説明会を開催 (石川県地質調査業協会)

- ◆ 普通科等高校に向け
現場見学会を実施 (建設現場の見学や仕事の説明等を実施し、建設業に対する正しいイメージの定着を促し、建設業への入職意欲向上を図る)
教員・生徒との意見交換会 (生徒に対する建設業のPRや企業で働く先輩との意見交換の他、教員と業界との意見交換も行い、建設業への入職促進に関する現状・課題等への理解を図る。)
- ◆ 児童・保護者向け
子供向け土木イベント「目指せ！土木エンジニア」等のイベントを通じて、土木に対して親しみを持ってもらい、保護者に対しても、建設業へのイメージアップを図る。 (石川県)
- ◆ 現場見学会提案工事の実施
平成27年度試行の「現場見学会提案・実施モデル工事」の実施を受けて、今年度より事務所独自の、「現場見学会提案工事」を試行する。対象としては、工事実施地区の小学校、中学校、工業系の高校とする。
- ◆ 普通科等高校の教員を対象に現場見学会を実施
普通科等高校の教員を対象とした現場見学会を実施 (就職担当の先生に、建設界への理解と魅力を感じてもらい、就職指導の参考として頂く) (金沢河川国道事務所)

継続的な取り組み（石川県部会）

◆ 金沢大学の「土木建設防災マネジメント特別講演会」における取組

- 【◎金沢大学、石川県建設業協会、建設コンサルタンツ協会、石川県測量設計業協会、金沢河川国道事務所】
- ・担い手協議会石川県部会での取組の一環として、金沢大学の3回生、合計約60名を対象に、特別講演会を実施。
 - ・「建設の仕事」を道路事業を事例に、測量・コンサルタント・工事（改良・舗装）・国土交通省の各部門から金沢大学OB等が講師となって、就職のきっかけから現在の職務について紹介。

産学官連携による特別講義

平成27年12月21日（月）13:00～14:30

建設の仕事（公務員・測量・コンサル・建設） すべて見せます

～能越自動車道七尾氷見道路が開通するまでを事例として～

進行概要

1. 講義（13:00～14:15）

- | | | |
|------------------|--------|--------|
| ①金沢河川国道事務所 | 阿部 良司 | 「資料-1」 |
| ②（一社）石川県測量設計業協会 | 仙臺 幸宏 | 「資料-2」 |
| ③（一社）建設コンサルタンツ協会 | 高島 智佳子 | 「資料-3」 |
| ④（一社）石川県建設業協会 | 菊川 雅司 | 「資料-4」 |
| ⑤（一社）石川県建設業協会 | 北村 啓太 | 「資料-5」 |

2. 質問時間（14:15～14:30）

国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所
（一社）石川県建設業協会
（一社）建設コンサルタンツ協会
（一社）石川県測量設計業協会



女性技術者への期待や職場環境への取組についても紹介



講師は、建設界に携わる5名の卒業生等



講義状況



約60名の学生が聴講

- ◆ 各機関の取組内容やインターンシップ情報、各種告知など、担い手確保に関する情報共有・発信を目的にホームページを公開しています。
- ◆ 関係機関の担い手確保に関する様々な情報を掲載しますので、情報提供よろしくお願ひ致します。

NEWS&TOPICS

- 2015/02/09 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会在任者インタビュー
- 2014/12/18 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 石川県部会を創設
- 2014/12/17 北陸地方整備局のコンクリート部会を創設しました。
- 2014/12/15 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 新潟県部会を創設

活動内容の紹介

『測量特番』新潟県測量設計業協会

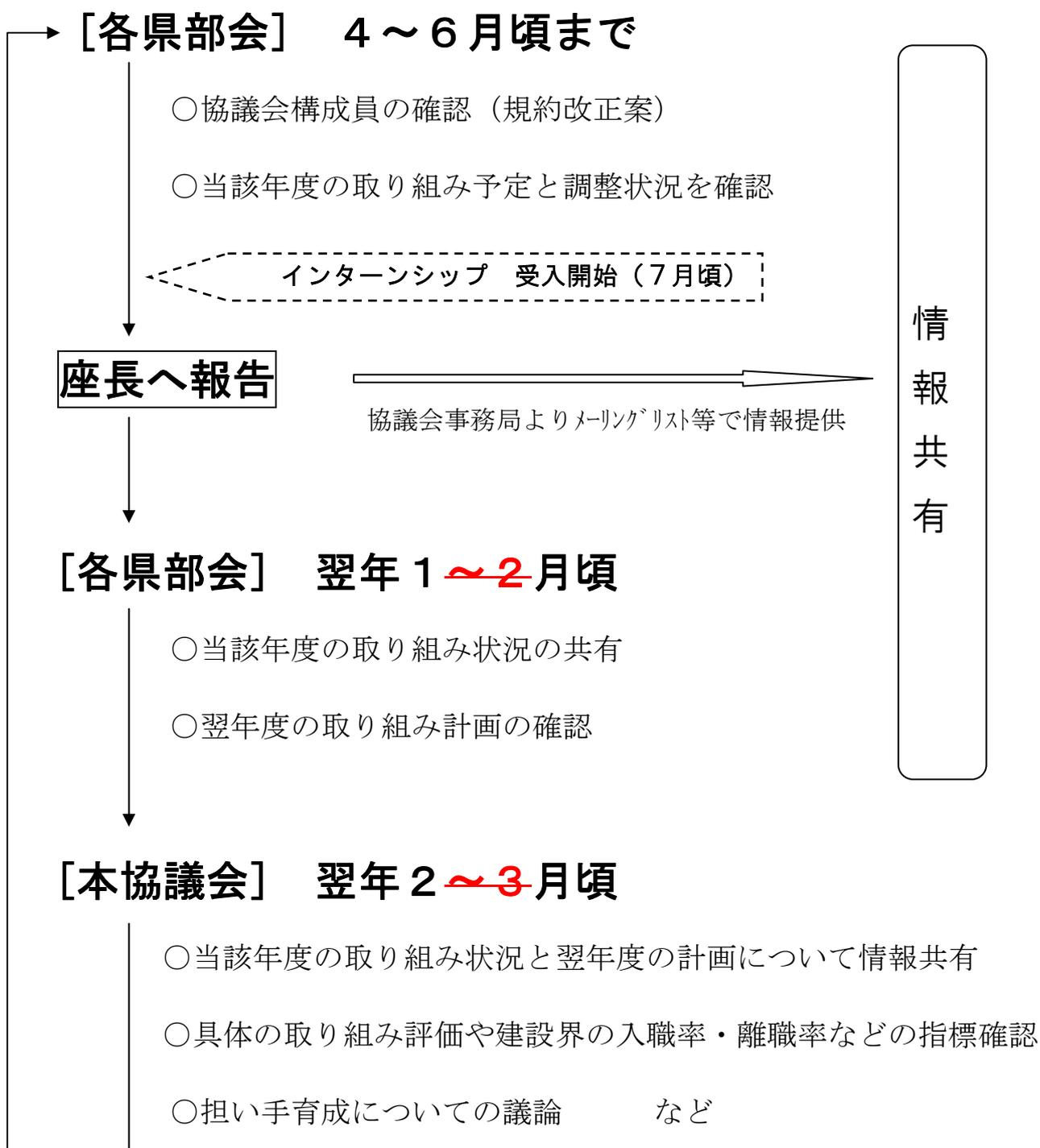
建設界の魅力を発信する各種情報、資料などの掲載をご検討の場合は、事務局までご相談ください。

北陸地方整備局 企画部
企画課 事業調整係
025-280-8834

<http://www.hrr.mlit.go.jp/Leaders/index.html>

検索 建設界 担い手

協議会の進め方



平成 28 年 3 月 24 日（木）担い手協議会（発言要旨）

○長岡技科大 細山田教授

大学で定員を確保することは常に求められており、土木として定員を下回ることは今のところ起きていないのが現状。新潟県で求人に対してどれだけの人材を習得していくか数字が出ていたように思いますが、100 に対して落ち込んでいるのではなくて大学としてはほぼ 100%入口のところでは取り入れていると思っている。出口のところでは他の業種に行かないかという問題が土木以外のところで昔、銀行などの金融機関に出て行くことがあったが、最近はそのようなことはないので教育機関の中では大学高専など土木に関して落ちている感じはしていない。ただし学生の質は昔とは違ってきているかもしれない。人間数としてはそんなに落ち込んでいる感じはない。

○新潟大学 佐伯教授

新潟大学の先生が言ったこととほとんど変わらないが、議題にあるホームページのコンテンツの作成にあたってどんな情報とかというよりはむしろ、建設業界の中で建設業界に進むことが決まっている学生をどこが取り合うかという話になると色々あるが、公務員だったり、コンサルタツだったり、建設業だったりというのはあるかもしれないが、建設業界の担い手確保という観点からいうと、もうそれは必要ないのではないかな。

○長岡高専 宮腰教授

高専の場合は状況が違っており、中学生に入ってきてもらわないといけないというところがあり、大学と比較すると低年齢層にアピールしていかないとなかなか人材が学校に入ってきてくれない。入ってきてもらった学生には中で教育をして業界に就職するという形になってきている。入学者の確保というところが非常に厳しいのが大学と違って来ている。

○新潟大学 佐伯教授

新潟大学で高校の先生に色々とおアピールしようということで、土木とか工学部とかに限らずですが、高校の先生を招いて懇談会を行った。高校生が進路を選ぶときに結構効いているのが、中学校から始まっている総合学習がある。将来の職業を調べようということから始まって、それが高校生もあるらしくそこで最初に面白そうだと中学の早い段階で着目した職業を調べて行って、最終的に高校生になった時にはその職業に就くためにはこの大学のこの学科というところで、一応完結するみたいな長いストーリーがある。高校の先生が指導する際には、そういう一つの職業に偏ることなく視野を広げてみたらというふうに言うが、結局ずっと調べているものにいきたいということで、視野が狭くなるようなところがあるようです。なので、最初の中学生の割と早い段階で建設業というのが彼らの視野に入るようになる必要がある。

○金沢大学 斎藤教授

この3つに関してというか、どれに関してということではないが、金沢大学の現状からすると、定員割れというのは今のところはそういう状況にはなっていない。それがなぜキープ出来ているのかということや大学として分析しないといけないと思っている。大方、周りの学生さん達にも話を聞いていると、例えば今非常に多いのは公務員になりたい、それと、地元から離れたくない、また親がそれを希望しているというのがあり、3点セットで実現できるのが土木に関しての学科であるという意識があるようです。受験する際にも例えば地方上級試験であったり、整備局さんであったりするならば、土木の方が良いという意識が親もあるみたいです。ただ問題なのはそれだけがそうなのかということなんです。この職種だけということではなくて色々な職種で皆が考えて欲しいというのがあるので、その間点からすると、いま色んなところで具体的な現場見学などで中をみせているのが非常にいいことだと思うが、結果としてみんながいるところ、お父さんお母さんであったり、住民の皆さんの周りであるところが目にするのは外堀なので、色々な現場があるところで、その現場がるところで周りの住民がその現場と一緒に共同できるかできないかが大きく関わってくるのかなと、そうすると公務員とかという職種だけじゃなく、やはり作ることに従事してる方とか、設計や測量などの職種に、とにかく若いお母さんやお父さんが興味を持ってもらえるという環境と、その子ども達がそれに同調するという環境を作らないといけないというのが大切だと思っている。

○富山大学 川口副学長

富山大学には土木系はまだない。早急に今、検討中で都市デザイン学科、仮称ですが出来るだけ早い設置を目指して検討中です。設置を目指して入口、出口調査をやっておりません。昨年実施した高校生を対象にしたアンケート調査結果は、結果的には比較的多くの志願者倍率が得られていると考えている。ただし従来の他大学における工学部の土木系の志願者倍率を調べると必ずしも高い倍率ではないが、ネーミングとか内容で土木系で何を教えるのかハード系だけでなくソフト系もある程度充実させるというような内容にすれば、けっこう志願者倍率も上がるのではないかと考えている。今日、色々聞かせてもらったところ、小学生や中学生を対象とした出前授業をしているが、なにか自分自身の手で作上げた体験が出来ればいいと、普通、科学教室をやられていればものづくりのことをやってるんですが、土木系で何か自分の手で作ることができるものがあるか、橋やそういったものを作り上げていくというようなことが経験できれば、けっこう小学生や中学生でも将来土木をやってみようという人が増えるんじゃないかと思っています。それと土木系が一番、他の学科でない工学系の強みは非常に大きなダムやそういった建設物をつくることのできるのが非常にやりがいがあるということだと思うので、そういうのを見学会など作っている技術者も呼んで、そこで学生や教員と対談する機会をできるだけ増やすと将来土木系に進む人が増えると思います。

○藤山局長

建設系、土木系の大学の立場で行くと数でいうところの不足というのはそういうものは特段、今のところ感じられないと、出口については全体を占めているとは言わないが、一時期と比べてある程度方向性というものを理解してもらっていると、あまりポジティブな考えばかりも先ぼそりするところがあるので、そういう意味では先生からもお話しがあったように中学生の早い段階、あるいは小学生の頃から色んなアプローチで建設関係という仕事について理解してもらい、体験してもらうのが重要だという話があった。特段、こういう意見を聞いてすぐこうすることではないが、中学生、小学生へのアプローチとなるとその成果が出てくるのが早くても何年か後ということになるので、非常に地道な活動が必要になってくると思う。担い手確保育成の仕事については一昨年から協議会を発足して頑張ってもらっていますが、ひとつひとつ丁寧にやって、なおかつ長くやっていかないといけない部分があるので、頂いた意見も踏まえて各部会での28年度の個別の活動に反映させていただき、28年度間に合わなかったら、色々と相談頂いて、29年度以降にどのような活動をやって行けば良いのかという参考にさせていただければと思います。

平成27年度 建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて（石川県内）

参考資料

現場見学会対象 学校対象 共通事項											備考 (H28年予定)
取組分類	対象の分類	連携大学等以外・一般団体名称	年度	日付 ○/○/○	人数	担当事務所	実施概要（※特徴を記入）	県別	場所	協力機関・企業	
(学校連携)学識者による講演会等	金沢大学	金沢工大、小松工高、羽咋工高、翠星高校、金沢市立工高、石川工専	H27	10月16・17日	480	複数事務所協同	けんせつフェア北陸in金沢2015:「けんせつ小町座談会」「展示技術見学」「合同企業セミナー」	石川県	石川県産業展示館4号館	新潟・富山・石川県 新潟・金沢市 JH東日本・中日本(株)各支社(一社)日建連・日道建協各支部(一社)新潟・富山・石川県建設業協会 他8各関係団体	
(共通)その他	一般団体	県内の工業系の学生も参加	H27	10月16・17日	4000	企画部	「けんせつこまち」によるパネルディスカッションなど、建設界の魅力を発信するイベントを多数実施	石川県		関係機関・団体が多数参加	
1 (共通)現場見学会	金沢工業大学	連携校(大学)	H27	10月19日	80	複数事務所協同	反転授業(講義及び現地見学)		金沢東部環状道路利賀ダム	金沢工業大学	
2 (共通)現場見学会	石川工業高等専門学校	連携校(工業高等専門学校)	H27	9月11日	43	金沢港湾・空港整備事務所	ポンプ浚渫船の見学および行政、建設業界の紹介	石川県	金沢港五郎島岸壁および港会館	日本埋立浚渫協会	
3 (共通)現場見学会	小松工業高等学校	連携校(高校)	H27	12月8日	38	金沢河川国道事務所	梯川改修事業の説明、受注者(若手技術者)による建設業としての経験談等	石川県	小松天満宮(小松市天神町)	(株)江口組	
4 (共通)現場見学会	金沢市立工業高等学校	連携校(高校)	H27	8月6・7日 8月17・18日	2	金沢河川国道事務所	工業人養成企業実習	石川県	輪島道路	金沢建設業協会 石川建設工業(株)	
5 (共通)現場見学会	金沢市立工業高等学校	連携校(高校)	H27	10月20日	40	金沢河川国道事務所	現場見学:砂防(基之助谷地滑り)及び道路(神谷内トンネル)	石川県	基之助谷地滑り、神谷内トンネル	石川県建設業協会	
6 (共通)現場見学会	金沢市立工業高等学校	連携校(高校)	H27	10月20日	42	金沢河川国道事務所	白山で行われている、砂防及び地すべり工事等について砂防科学館で学習	石川県	白山砂防科学館	金沢河川 H28.7.12(予)1班 1年生41名 海・河	
7 (共通)現場見学会	羽咋工業高等学校	連携校(高校)	H27	10月14日	8	金沢河川国道事務所	事業・工事概要説明、現場実習(測量・番線縛り等)	石川県	輪島道路(中地区)	小倉建設(株)	
(共通)現場見学会	連携校以外の大学等	石川県立大学	H27	4月28日	3	金沢河川国道事務所	白山で行われている、砂防及び地すべり工事等について砂防科学館で学習	石川県	白山砂防科学館		
(共通)現場見学会	連携校以外の大学等	石川県立大学	H27	9月15日	40	金沢河川国道事務所	白山で行われている、砂防及び地すべり工事等について砂防科学館で学習	石川県	白山砂防科学館		
(共通)現場見学会	連携校以外の大学等	石川県立大学	H27	9月15日	42	金沢河川国道事務所	ダム天端及び操作室見学及びDVDによる概要説明	石川県	手取川ダム		
(共通)現場見学会	連携校以外の大学等	星稜大学	H27	6月26日	5	金沢河川国道事務所	白山で行われている、砂防及び地すべり工事等について砂防科学館で学習	石川県	白山砂防科学館		
(共通)現場見学会	連携校以外の大学等	奈良女子大学	H27	6月2日	11	金沢河川国道事務所	白山で行われている、砂防及び地すべり工事等について砂防科学館で学習	石川県	白山砂防科学館		
(共通)現場見学会	連携校以外の大学等	芝浦工業大学	H27	8月7日	15	金沢宮繕事務所	金沢広坂合同庁舎の免震装置	石川県	金沢広坂合同庁舎		
(共通)現場見学会	連携校以外の大学等	群馬大学	H27	8月24～28日	1	金沢河川国道事務所	白山麓の歴史・文化・自然と砂防の役割を学ぶ	石川県	白山砂防管内 崩壊地・砂防施設及び砂防工事現場	キャンブ砂防	
(共通)現場見学会	連携校以外の大学等	弘前大学	H27	8月24～28日	1	金沢河川国道事務所	白山麓の歴史・文化・自然と砂防の役割を学ぶ	石川県	白山砂防管内 崩壊地・砂防施設及び砂防工事現場	キャンブ砂防	
(共通)現場見学会	連携校以外の大学等	信州大学大学院 農学研究科	H27	8月24～28日	1	金沢河川国道事務所	白山麓の歴史・文化・自然と砂防の役割を学ぶ	石川県	白山砂防管内 崩壊地・砂防施設及び砂防工事現場	キャンブ砂防	
(共通)現場見学会	連携校以外の高校	石川県立鶴来高等学校	H27	8月3日	41	金沢河川国道事務所	白山で行われている、砂防及び地すべり工事等について砂防科学館で学習	石川県	白山砂防科学館		
(共通)現場見学会	連携校以外の高校	金沢大学付属高等学校	H27	8月3日	12	金沢河川国道事務所	白山で行われている、砂防及び地すべり工事等について砂防科学館で学習	石川県	白山砂防科学館		
(共通)現場見学会	連携校以外の高校	金沢大学附属高等学校	H27	8月4日	12	金沢河川国道事務所	ダム天端及び操作室見学及びDVDによる概要説明	石川県	手取川ダム		
(共通)現場見学会	連携校以外の高校	金沢学院高等学校	H27	8月4日	40	金沢河川国道事務所	白山で行われている、砂防及び地すべり工事等について砂防科学館で学習	石川県	白山砂防科学館		
(共通)現場見学会	連携校以外の高校	輪島高校 総合学科生産システム系列	H27	8月19日	1	金沢河川国道事務所	就職応募前職場見学	石川県	輪島道路	(株)協建設 元請(株)豊蔵組	
(共通)現場見学会	連携校以外の高校	七尾東雲高校 総合経営学科農業コース	H27	8月28日	43	金沢河川国道事務所	建設産業の若手人材確保のための高校生と建設業界との意見交換会 輪島道路で施工中の工事を紹介	石川県	七尾東雲高校	七尾鹿島建設業協会、羽咋都市建設業協会、南建設(株)	
(共通)現場見学会	連携校以外の高校	鶴来・金沢辰巳丘・宝達・志賀・七尾東雲・内灘・小松大谷 計7校	H27	8月21日	22	金沢河川国道事務所	施工状況の見学	石川県	神谷内TN	(株)安藤・間	
(共通)現場見学会	連携校以外の高校	七尾東雲高校	H27	10月6日	5	金沢河川国道事務所	工事現場の見学	石川県	輪島道路	小倉建設(株)、南建設(株)	
(共通)現場見学会	連携校以外の高校	小松大谷高校	H27	11月27日	2	金沢河川国道事務所	工事現場の見学	石川県	小松地区(河川)		

平成27年度 インターンシップ受入人数 石川県内

参考資料

①	②	②-2	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩備考
取組分類	対象の分類	名称	年度	日付 ○/○/○	人数	実施機関	実施概要(※特徴を記入)	連携機関名	
1 インターンシップ	大学(建設系)	金沢工業大学 環境建築学部 環境土木工学課3年	H27	8月17~28日	1	金沢河川国道事務所	業務体験を実施		
2 インターンシップ	工業高等専門学校	石川工業高等専門学校 環境都市工学4年	H27	8月3~14日	1	金沢河川国道事務所	業務体験を実施		
3 インターンシップ	工業高等専門学校	石川工業高等専門学校 環境都市工学4年	H27	8月17~28日	2	金沢河川国道事務所	業務体験を実施		
4 インターンシップ	工業高等専門学校	石川工業高等専門学校 環境建設工学専攻1年	H27	9月24日 ~12月18日	1	金沢河川国道事務所	業務体験を実施		
5 インターンシップ	建設系の高校	羽咋工業高等学校	H27	10月14日	8	金沢河川国道事務所	事業・工事概要説明、現場実習(測量、番線縛り等)	小倉建設(株)	
6 インターンシップ	大学(建設系)	金沢工業大学	H27	8月31日 ~9月4日	1	(一社)石川県地質調査業協会 会員企業			
7 インターンシップ	大学(建設系)	石川県立大学	H27	8月31日 ~9月4日	2	(一社)石川県地質調査業協会 会員企業			
8 インターンシップ	工業高等専門学校	石川工業高等専門学校	H27	8月31日 ~9月4日	2	(一社)石川県地質調査業協会 会員企業			
9 インターンシップ	大学(建設系)	金沢大学	H27	8月24~28日 8月31日~9月4日	2	(一社)石川県地質調査業協会 会員企業			
10 インターンシップ	建設系の高校	石川県立翠星高等学校 総合グリーン科学科2年生	H27	9月9~11日	6	(一社)石川県測量設計業協会			
11 インターンシップ	建設系の高校	小松工業高等学校	H27	10月20~22日	40	(一社)石川県建設業協会	建設科2年生、建設会社(21企業)	(一社)小松能美建設業協会 (一社)加賀建設業協会	
12 インターンシップ	建設系の高校	金沢市立工業高等学校	H27	7月21~31日	8	(一社)石川県建設業協会	建築科2年生、建設会社(4企業)	(一社)金沢建設業協会	
13 インターンシップ	建設系の高校	金沢市立工業高等学校	H27	8月17~20日	11	(一社)石川県建設業協会	土木科2年生、建設会社(5企業)	(一社)金沢建設業協会	
14 インターンシップ	建設系の高校	羽咋工業高等学校	H27	10月14~16日	14	(一社)石川県建設業協会	建設造形科(建築コース)2年生、建設会社(6企業)	羽咋郡市土建協同組合 (一社)羽咋郡市建設業協会 (一社)七尾鹿島建設業協会	
15 インターンシップ	建設系の高校	羽咋工業高等学校	H27	10月14~16日	8	(一社)石川県建設業協会	建設造形科(土木コース)2年生、建設会社(6企業)	羽咋郡市土建協同組合 (一社)羽咋郡市建設業協会 (一社)七尾鹿島建設業協会	

平成28年度 現場見学先候補リスト(金沢河川国道事務所分)

番号	テーマ	種別	時期	概要	備考
1	H27梯川天神輪中堤下流工事 【特殊護岸-箱型擁壁工の施工】	河川	6~7月	小松天満宮(国指定重要文化財)を原位置で保存が図られるよう分水路方式による河川整備を施工中。完成を控える箱型擁壁工による輪中堤並びに大型ブロックによる分水路の法覆護岸工の施工が見学できる。	H28.3契約済
2	①H27赤岩砂防堰堤改築工事 ②H28赤岩第2号砂防堰堤改築工事 【既設砂防堰堤の補強、改良、天然ダム対策】	砂防	6~7月	手取川上流の牛首川(白山市白峰地先)において既設砂防堰堤3基の補強、改良工事を実施中。大規模な土砂流出により形成される天然ダムへの対策としてスリット化を合わせて施工。 3基のうち第2号堰堤にてコンクリートによる本体工の施工を見学できる。	①H28.3契約済
3	神谷内トンネルⅡ期線工事(トンネル掘削)	道路	6~8月	金沢東部環状道路事業として金沢市神谷内において実施しているトンネル掘削工事。全断面掘削により上半、下半の早期閉合を行い施工するものです。	
4	石川海岸(小松工区)小松人工リーフ[ブロック設置工]	海岸	7~8月	小松工区的人工リーフは水位上昇抑制機能のあるブロックを使用している。大型船クレーンがブロックを設置している状況を海上から見学可能。	ヘルメット、ライフジャケット必要
5	①H27-28梯川白江低水護岸その1工事 ②H27-28梯川白江低水護岸その2工事 【鋼矢板による低水護岸の施工】	河川	8~10月	梯川の小松市白江地先において実施している低水護岸工事である。 矢板護岸工(8月)、ブロックマットによる法覆護岸工(10月)が見学できる。	①、②H28.3契約済
6	H28甚之助谷上流山腹工事 【最上流荒廃地斜面での法面対策工】	砂防	8~10月	手取川水系牛首川の最上流部、甚之助谷でH26春に発生した法面崩落箇所の対策工事である。法面对策工として高強度硬鋼線ネット工、鉄筋挿入工、植生工が見学できる。	
7	三井IC橋本線橋上部工事	道路	9~12月	高規格幹線道路網を形成する能越自動車道の一部である輪島道路事業の三井IC(輪島市三井町地先)を構成する橋梁上部工事。橋梁上部工(橋長:55m、鋼橋)及び床版打設後の状況が見学できる。	
8	H28梯川天神輪中堤工事 【分水路施工の最終工程】	河川	10~11月	小松天満宮(国指定重要文化財)を原位置で保存が図られるよう分水路方式による河川整備を施工中。 10月中に分水路(新川側)に通水予定である。通水間際の工事進捗状況又は旧堤防、河道掘削等の事業終盤の施工状況が見学できる。	

平成28年度 実習生募集のお知らせ

教育機関 実習生担当の皆様へ

企画部 企画課



北陸地方整備局では、学生の学習意欲の喚起や資質の向上等を目的とした実習生の受入を実施します。

希望される教育機関の担当の方は、以下の実施要領、実習生受入フロー等を確認の上、希望調書(様式1)を北陸地方整備局企画課までご提出下さい。なお不明な点については下記担当までお問い合わせください。

実習生が実習のために要する費用は、実習生個人又は教育機関の負担となりますので、ご了承ください。

「夏期実習生受入までの流れ」

実施要領【PDF】 実習生受入フロー【PDF】

- 1 **【各学校】**
各学校ごとに、実習生として推薦する学生をとりまとめ、希望調書(様式1)を北陸地方整備局企画課に提出(メール又は郵送)してください。
提出締切：6月10日(金)
・希望調書 様式1(参考) 【PDF形式】【Excel形式】
・受入事務所一覧表【PDF】
- 2 **【北陸地方整備局】**
各学校の希望調書をもとに、受入先を調整・決定し、各学校にお知らせします(6月下旬～7月上旬予定)
- 3 **【各学校・北陸地方整備局】**
実習期間内の遵守事項を記載した覚書を締結、実習生より誓約書・意気込みを提出して頂きます。
・覚書 様式2(参考)【PDF】
・誓約書 様式3(参考)【PDF】
・意気込み 様式4(参考)【PDF】
※様式は、連絡をいただければ、電子データを送付いたします。
- 4 **【実習生】**
受入事務所に実習の詳細について問い合わせてください。
- 5 **【実習生】**
受入事務所にて就業体験。
- 6 **【実習生】**
実習終了後2週間以内に、レポートを作成して頂きます。
【各学校】
実習生のレポートをとりまとめの上、北陸地方整備局に提出してください。

夏期実習は、所属する学校の推薦状が必要です。個別での受付はいたしませんので、夏期実習を希望される場合は、学校を通じて申込み手続きを行ってください。

北陸地方整備局実習生実施要領

(趣旨)

第1 この要領は、学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する大学、高等専門学校及び北陸地方整備局管内の高等学校（大学院及び短期大学を含む。以下「教育機関」という。）の土木系学生・生徒（以下「学生」という。）を対象として、北陸地方整備局において行う実習（以下「実習」といい、実習を行う学生を「実習生」という。）について、受入事務所、期間、手続き、服務、その他必要な事項を定めるものである。

(実習の目的)

第2 本実習は、教育機関の学生を北陸地方整備局において就業体験を行わせることにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国土交通行政に対する理解を深め特に公務又は河川、道路、港湾、空港などのインフラ整備や、この維持管理に係る職業を志望する人材の育成への一助とすることを目的とする。

(実習の受入事務所)

第3 実習の受入事務所は、北陸地方整備局管内の事務所とする。

(実習の期間)

第4 実習の期間は、実習生受入事務所の実情により北陸地方整備局が決定する。

(実習生の受け入れ手続き)

第5 実習生の受け入れ手続き等については、次のとおりとする。

- (1) 教育機関は、実習生として推薦する学生をとりまとめ、北陸地方整備局企画部長に提出する。
- (2) 北陸地方整備局は、教育機関の推薦に基づき、受入れる学生を選考、決定し教育機関に通知する。当該学生への結果の通知は各教育機関において行う。
- (3) 実習生の受け入れにあたっては、教育機関と北陸地方整備局との間で、実習期間中における遵守事項等を記載した覚書を締結するものとする。
- (4) 実習生は、実習開始前に服務規律の遵守にかかる誓約書を事前に北陸地方整備局に提出しなければならない。

(指導員)

第6 実習生受入事務所に指導員を設け、実習生の指導にあたる。

(実習生の服務等)

第7 実習生の服務等の取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 実習生は、実習時間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めなければならない。

い。

- (2) 実習生は、実習時間中、北陸地方整備局職員が遵守すべき法令等を遵守するとともに、指導員及び実習担当者の指導、指示等に従い、実習期間中は実習に専念し、公務の信用を傷つけ、又は公務員全体の不名誉となるような行為を行ってはならない。
- (3) 実習生が実習を行う時間は、北陸地方整備局の職員に適用されている勤務時間の例による。
- (4) 実習生は、実習により知り得た情報（公開されているものを除く。）を漏らしてはならない。実習終了後においても同様とする。
- (5) 実習生は、実習の成果として論文等を外部へ発表等する場合には、事前に実習生受入事務所長の承認を得なければならない。
- (6) 実習の欠務は正当な事由がある場合以外はこれを認めないこととする。実習生は、病気等のため予定されていた実習を受けることができない場合には、あらかじめ指導員にその旨連絡しなければならない。やむを得ない場合は、事後速やかに指導員にその旨連絡しなければならない。
- (7) 実習生としてふさわしくない行為があったときは、実習生受入事務所は、実習を打ち切ることができるものとする。実習を打ち切った場合は、速やかに教育機関にその旨を通知することとする。
- (8) 実習生の懲戒、賠償等に関する最終的な責任は、教育機関で負うものとする。

（実習に係わる費用負担）

第8 実習生の実習のために要する費用の一切は、実習生個人又は教育機関の負担とする。

（実習中の事故等に伴う災害補償）

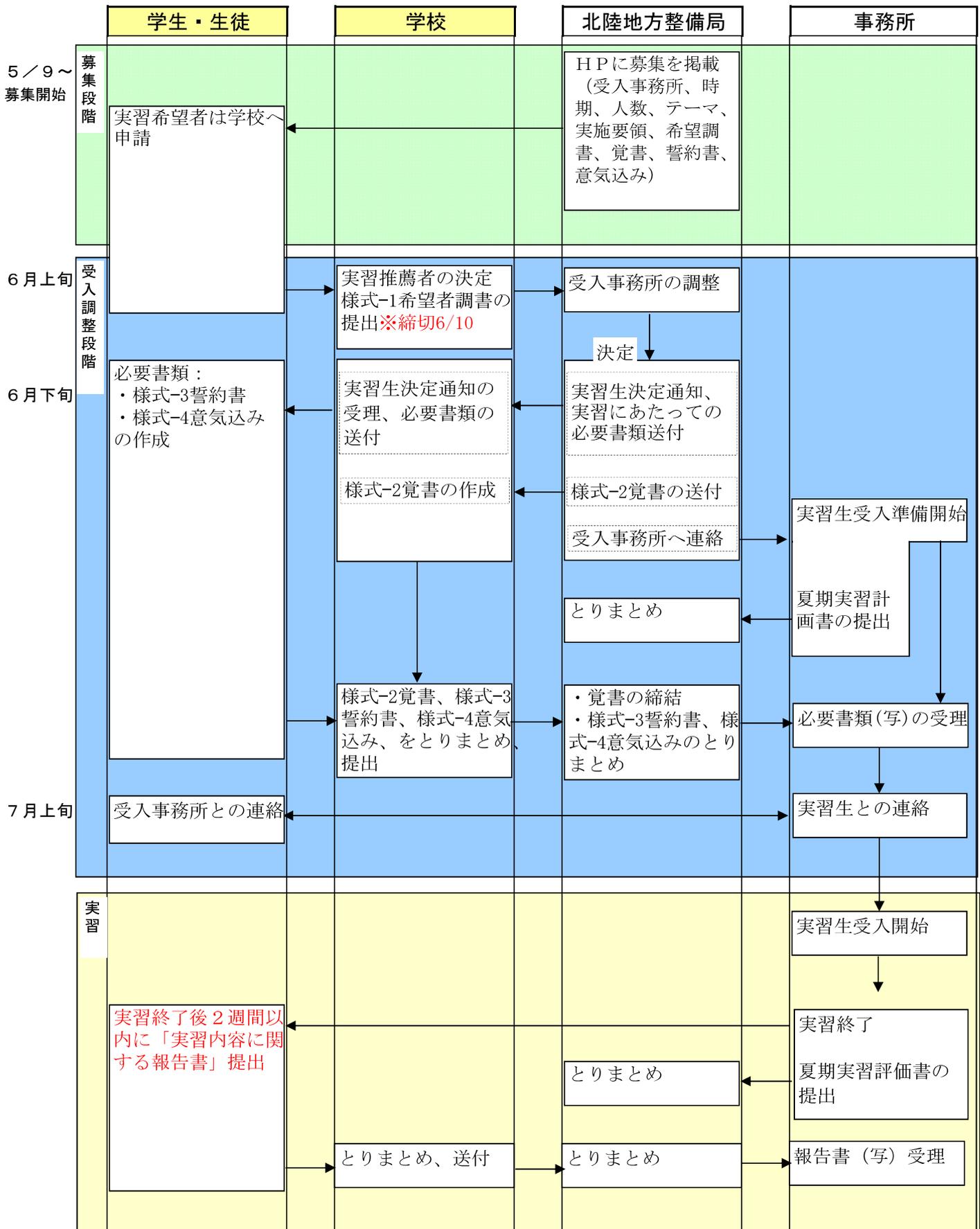
第9 実習中の事故等に伴う災害補償については、次のとおりとする。

- (1) 教育機関又は実習生は、原則として、実習前に傷害保険及び損害賠償保険（以下「保険」という。）に加入しなければならない。
- (2) 実習生の実習期間中の災害及び通勤に際しての災害については、実習生が加入する保険をもって充てる他、教育機関が必要な手続きを行い、誠意をもって問題の解決にあたるものとする。
- (3) 実習生が北陸地方整備局又は第三者に損害を与えた場合は、法令に従って処理し、保険等により補償する。

（その他）

第10 この要領等に定の無い事項及びこの要領に関して疑義が生じた事項については、北陸地方整備局、実習生受入事務所、教育機関、実習生及びその他の関係者が協議して決定するものとする。

北陸地方整備局実習生受入フロー



様式-1

北陸地方整備局実習生 希望調書

平成 年 月 日 記入

ふりがな			性別		年齢	
氏名						
学校名 在籍年次	学校名				学年	
	学科等					
研究テーマ(専攻) の概要						
現住所	〒		TEL			携帯
			e-mail			
帰省先住所	〒					
	TEL					
緊急連絡先	氏名			続柄		
	TEL					
学歴 入学年月	年 月	学校名				
卒業年月	年 月	学校名				
入学年月	年 月	学校名				
	年 月					
希望事務所1			通勤	通勤時間	分	
希望時期1						
希望事務所2			通勤	通勤時間	分	
希望時期2						
希望事務所3			通勤	通勤時間	分	
希望時期3						
北陸地方整備局インターンシップを志望した動機、希望テーマ						

北陸地方整備局実習生実施要領（平成17年3月9日付け国北企企画第211号企画部長通知）（以下「要領」という。）第5（3）に基づき、北陸地方整備局と〇〇〇大学（以下「教育機関」という。）は、別記「北陸地方整備局実習生名簿」に記載されている教育機関の所属学生（以下「実習生」という。）が北陸地方整備局において実習を行うことについて、下記のとおり覚書を締結する。

記

第1 実習実施に係わる基本的役割等

北陸地方整備局は別記のとおり実習生として受け入れ、実習生に対し必要な指導・助言を行う。教育機関は実習生に対し北陸地方整備局実習生実施要領及び本覚書に定める事項を周知するとともに、円滑な実習を進めるため必要な指導及び監督を行う。

第2 実習中における遵守事項等

- (1) 実習生は、実習時間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めなければならない。
- (2) 実習生は、実習時間中、北陸地方整備局職員が遵守すべき法令等を遵守するとともに、指導員及び実習担当者の指導、指示等に従い、実習期間中は実習に専念し、公務の信用を傷つけ、又は公務員全体の不名誉となるような行為を行ってはならない。
- (3) 実習生が実習を行う時間は、北陸地方整備局の職員に適用されている勤務時間の例による。
- (4) 実習生は、実習により知り得た情報（公開されているものを除く。）を漏らしてはならない。実習終了後においても同様とする。
- (5) 実習生は、実習の成果として論文等を外部へ発表等する場合には、事前に実習生受入事務所長の承認を得なければならない。
- (6) 実習の欠務は正当な事由がある場合以外はこれを認めないこととする。実習生は、病気等のため予定されていた実習を受けることができない場合には、あらかじめ指導員にその旨連絡しなければならない。やむを得ない場合は、事後速やかに指導員にその旨連絡しなければならない。
- (7) 実習生としてふさわしくない行為があったときは、実習生受入事務所は、実習を打ち切ることができるものとする。実習を打ち切った場合は、速やかに教育機関にその旨を通知することとする。
- (8) 実習生の懲戒、賠償等に関する最終的な責任は、教育機関で負うものとする。

第3 事故への対応等

- (1) 教育機関又は実習生は、原則として、実習前に傷害保険及び損害賠償保険（以下「保険」という。）に加入しなければならない。
- (2) 実習生の実習期間中の災害及び通勤に際しての災害については、実習生が加入する保険をもって充てる他、教育機関が必要な手続きを行い、誠意をもって問題の解決にあたるものとする。
- (3) 実習生が北陸地方整備局又は第三者に損害を与えた場合は、法令に従って処理し、保険等により補償する。

第4 費用負担

実習生の実習のために要する費用の一切は、実習生個人又は教育機関の負担とする。

第5 誓約書の提出

実習生は、実習に先立ち、北陸地方整備局に対して誓約書を提出する。

第6 協議

本覚書に定めがない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、北陸地方整備局と教育機関が協議の上決定するものとする。

本覚書の締結を証するため、本書2通を作成し、北陸地方整備局及び教育機関が記名捺印の上それぞれ1通を保管するものとする。

平成 年 月 日

（日付は、空欄。北陸地方整備局において本覚書を受領した日付を記入し、貴職へ返送致します。）

北陸地方整備局 企画部長 渡辺 学

〇〇大学・・・・・・

（総括責任者）

〇 〇 〇 〇

誓約書

北陸地方整備局企画部 企画部長 殿

北陸地方整備局において実習を受けるに当たり、北陸地方整備局実習生実施要領（平成 17 年 3 月 9 日付け国北整企画第 211 号企画部長通知）等を理解し、実習生として下記のとおり遵守することを誓約します。

記

1. 実習期間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めること。
2. 実習時間中、北陸地方整備局職員が遵守すべき法令等を遵守するとともに、指導員及び実習担当者の指導、指示等に従い、実習期間中は実習に専念し、公務の信用を傷つけ、又は公務員全体の不名誉となるような行為を行わないこと。
3. 北陸地方整備局における実習活動中に知り得た情報（公開されているものを除く。）の開示については、指導員の指示に従うこと。実習終了後においても、同様とすること。
4. 実習終了後 2 週間以内に、実習内容に関する報告書（A 4 判 3 枚程度）を作成し、教育機関を経由して北陸地方整備局に提出すること。
5. 実習の成果を論文等により外部へ発表する場合には、事前に実習生受入事務所長の承認を受けること。
6. 病気等のため予定されていた実習を受けられない場合は、あらかじめ、指導員にその旨を連絡すること。やむを得ない場合は、事後速やかに指導員にその旨を連絡すること。
7. 実習期間中における障害、損害等に関しては、教育機関と共に誠意をもって問題解決にあたること。

平成 年 月 日

教育機関名

学生氏名

印

様式-4

学校名、学 部 学 科、学年等	
学 生 氏 名	男 ・ 女
実習事務所名	
実習目的、目標、取り組み等：	
実習にあたっての要望等：	
その他(実習に臨んでの意気込み、特に強調したいこと)：	

平成28年度 受入事務所一覧表

所在地	事務所	人数	時期	期間	テーマ	実習内容	
山形県	西置賜郡小国町	1	8月下旬～9月上旬	1週間	飯豊山系の砂防事業 ～地域の自然と、暮らしの安全・安心を守る取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> 既設堰堤のスリット北など環境に配慮した砂防事業における魚道効果調査等 磐梯明日国立公園内や飯豊連峰など自然環境との調和を旨とした砂防施設における景観体験 地域を土砂災害から守る土砂危険度調査対策工事に関する工事監督業務 	
	村上市	2	8月下旬～9月下旬	1～2週間	清流荒川、北陸で最初の大石ダムと最新の横川ダム、日本海自動車道の管理ならびに国道113号「鷹ノ巣ハイパス」の工事監督	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年に「平成の水百選」にも選定された「清流荒川」の河川管理及びびダムの管理 東北地域に安全安心なサービスを提供する「日本海東北自動車道（高速道路）の道路管理業務、ならびに国道113号鷹ノ巣/美濃道の工事監督 	
新潟県	新潟県新潟市	1	7月下旬～8月上旬	2週間	新潟の人流と物流を支える「国際拠点港湾」新潟港と市民の安全を守る海岸の整備事業を体験	<ul style="list-style-type: none"> 【新潟港】 ・経験する機会があまりない海洋土木構造物の施工の最新様子を体験。 ・新着者は、船外と容易な多数の地元企業が物産拠点として利用している国際拠点港湾。 ・実習は、新潟港の浚渫・防波堤工事の現場実務等を体験。 【新潟海岸】 ・新潟海岸は全国でも海岸線が美しい海岸。 ・海岸線を防護するために「面的防護工法」による整備事業を実施中。 ・実習は、「面的防護工法」による整備事業の工事監督補助を体験。 	
		1～2	8月中旬～8月下旬	2週間	港湾施設の設計に用いる水理模型実験手法及び大規模地震に備えた耐震強化岸壁の設計	<ul style="list-style-type: none"> ・経験する機会があまりない海洋土木構造物の設計最新様子を体験。 ・新潟港湾空港技術調査事務所は、管内(新潟県、富山県、石川県、福井県)の重要な港の施設を設計している唯一の事務所。 ・港湾施設の設計は、波の推算、地盤の強度、構造物強度、入港船舶との関係による岸壁サイズの検討など多岐にわたる体験が出来る。 ・実習は、新潟西港の主要航路である国内長距離フェリーや佐渡航路など、安定運航を確保するために必要な施設の設計に用いる水理模型実験の手法を習得及び大規模地震発生時に緊急物資輸送を可能とするための耐震強化岸壁の設計方法の習得 	
	新潟市	新潟港湾空港技術調査事務所	2	7月上旬～9月下旬	2週間	防災拠点となる公共建築等の企画立案	<ul style="list-style-type: none"> ・設計プロポーザルで求める技術提案書を疑似的に作成 ・外資の利便性を考慮した税務書の増設計画の作成 ・大規模な空調設備更新を行っている庁舎の現場見学 ・管内の官庁施設で初の免震構造物を採用した庁舎のバックヤード見学 ・若手職員との意見交換会の実施
			3	8月下旬～9月上旬	2週間	信濃川下流域の治水事業 ～信濃川下流及び新潟海岸の取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> ・日本一の延長を誇る信濃川の下流域における河川整備の計画や環境保全、水文観測の実務、河川ハットロール等の実務を体験 ・海岸線が著しい新潟海岸における海岸保全施設の計画や環境保全、海岸ハットロールの実務を体験
	新潟市	阿賀野川河川事務所	1	7月下旬～9月中旬	2週間	阿賀野川下流域の治水事業 ～治水対策・自然再生の取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> ・日本一の延長を誇る信濃川の下流域における河川整備の計画や環境保全、水文観測の実務、河川ハットロール等の実務を体験 ・海岸線が著しい新潟海岸における海岸保全施設の計画や環境保全、海岸ハットロールの実務を体験 ・再生の取組の大河阿賀野川での地域安全・安心をまもる治水対策、確大な景観、豊かな自然環境の保全・
			2	7月上旬～8月上旬	2週間	新潟の青春を支える大動脈「新潟ハイパス」の道路管理業務及び本格的なメンテナンス(橋梁補修等工事)の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・全国有数の交通量(1日10万台以上)を支える新潟ハイパス等の道路管理業務(ハットロールや日常的な補修・修繕)の現場実務を体験 ・本格的なメンテナンス(橋梁補修等工事)の実践により、道路を「安全」に「長く」使うための橋梁補修等工事の監督(現地確認や施工業者との協議等)の現場実務を体験 ・中越地域の発展の基盤となる道路整備の調査、設計から施工、管理に至る一連のサイクルについて学ぶ
	新潟市	長岡国道事務所	2	8月下旬～9月上旬	2週間	新潟中越地域の道路事業 ～管内国道の整備から設計・施工・管理の取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> ・信濃川の流量をコントロールし、越後平野を洪水から守り続けている大河津可動堰を始めとした大規模河川管理施設を見て役割を学ぶ ・河岸段丘から扇状地、氾濫原へと地形の変化に富んだ信濃川での河川ハットロールを体験 ・地域の安全を確保する河川改修工事の施工管理を体験
			2	8月上旬～9月下旬	2週間	日本一の大河 信濃川中流域の治水事業 ～流域の安心・安全を守り、発展を支える取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> ・信濃川の流量をコントロールし、越後平野を洪水から守り続けている大河津可動堰を始めとした大規模河川管理施設を見て役割を学ぶ ・河岸段丘から扇状地、氾濫原へと地形の変化に富んだ信濃川での河川ハットロールを体験 ・地域の安全を確保する河川改修工事の施工管理を体験
	新潟市	国営越後丘陵公園事務所	2	7月下旬～8月下旬	2週間	国営越後丘陵公園の利用状況調査と利用促進計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の年間入園者数が過去最多を記録し、4年連続50万人を超える、日本海側唯一の国営越後丘陵公園の利用促進に向けた調査計画の実務を体験 ・水害常襲地帯の関川と、国内屈指の急流河川である姫川における河川整備、河川管理の実務体験 ・日本海に面した国道の管理による橋梁架設や、生活基盤の幹線軸となる国道ならびは道路管理の実務体験
			3	7月上旬～9月下旬	1週間	地域の自然と暮らしの安全・安心を守る三國川ダムの管理	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれたダムとして多くの方が訪れる三國川ダム(ロックフィル)の変位観測等を実施 ・地域を土砂災害から守る為の、現地調査補助や砂防工事現場監督補助及び砂防堰堤測量設計補助 ・中越地域からの復興に貢献した宇川流堰へ上地形の変化に富んだ信濃川における砂防設備の点検 ・我が国最初期のアーチ式砂防堰堤「大原太川第1号砂防堰堤(登録有形文化財)」の補強対策の検討補助 ・環境に配慮した砂防事業を進める為の、管内環境調査(魚類、植物等)補助
新潟市	湯沢砂防事務所	2	8月下旬～9月下旬	1～2週間	被災地の復興を支え、地域の安全・安心を守る砂防事業	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線開業で跡(古郡金沢市街地での道路ハットロールの実務) ・金沢市を縁取る山間部状で建設が進む貫通トンネル(山田山トンネル)における工事監督体験 ・小松市街地の分水路工の運水に向けた河川整備や、白江・能美地区の引堤などの工事監督体験 ・急流河川における工事監督及び河川ハットロールを体験 ・高山地域における全国有数の大規模地すべり対策の現地調査及び工事監督を体験 ・国内最大級のロックフィルダム、手取川ダムの流水の管理及び巡視・点検・観測・計測などの維持管理を体験 ・山から海までの総合工砂管理に関する現地調査を体験 	
		1	7月中旬～8月中旬	2週間	石川県の道路事業 ～直轄国道の整備・管理の取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> ・経験する機会があまりない海洋土木構造物の施工現場の最新様子を体験 ・港の安全性向上のため、冬の日本海の荒波から金沢港を守る大規模構造物の防波堤の計画及び工事現場実務体験 	
新潟市	金沢河川国道事務所	1	7月中旬～8月上旬	2週間	石川県の治水事業 ～横川及び手取川の河川、砂防、ダム、海岸の取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の日本の荒波から港を守る「重要港湾(金沢港防波堤(西)(改良)築造工事)にかかる計画および施工 	
		1	7月中旬～8月上旬	2週間	冬の日本海の荒波から港を守る「重要港湾(金沢港防波堤(西)(改良)築造工事)にかかる計画および施工		

平成28年度 受入事務所一覧表

所在地	事務所	人数	時期	期間	テーマ	実習内容
富山県	富山市 伏木富山港湾事務所	1	7月中旬～8月上旬	2週間程度	伏木富山港の主要係留施設(岸壁)における工事の施工・品質・工程管理についての実習	<ul style="list-style-type: none"> 伏木富山港は日本海側で数少ない国際拠点港の一つ。 その伏木富山港で、経験する機会が少ないうえに、海苔・水産物の計画及び施工の最前線を体験。 伏木富山港は伏木・新湊・富山の3地区からなる港であるが、実習の地点はそのうちの富山地区。 港の主な施設は波浪から港を守る防波堤と外国船などが係留する岸壁であるが、今回は岸壁工事を担当予定。 防波堤等の本体にもなるケーソン製作及び予防保全事業の最先端となる岸壁改良工事の現場実務(工事監督)を体験する。
		1	7月中旬～12月下旬	1～2週間程度	富山県の河川の特徴を考慮した河川事業	<ul style="list-style-type: none"> 日本一の急流河川である常願寺川において河川パトロール等を通して急流河川の特性及び新たな河岸防護工の考えを学ぶ
	富山県 富山河川国道事務所	2	7月中旬～9月中旬	1週間	富山県の道路事業 ～国道調査計画から工事・維持管理の取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> 富山県唯一の国道事務所である富山河川国道事務所管内の道路計画から事業実施までの調査計画実務 工事現場監督業務補助 高規格幹線道路の道路パトロール実務等の維持管理業務
黒部市	黒部河川事務所	3	7月下旬～8月上旬	1週間	黒部川の治水事業 ～黒部川流域の河川、砂防、ダムや下新川海岸の取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> 日本でも屈指の急流河川である黒部川の河川事業全般に関する実務 全国でも優良の激しい海岸として有名な下新川海岸の海岸事業全般に関する実務 直轄ダムでは初めてとなる土砂を排出する宇奈月ダムでの点検作業の実務体験 各事業における工事現場での実習
砺波市	利賀ダム工事事務所	2	7月下旬～9月下旬	1～2週間	利賀ダムの安全・安心を確保 一利賀ダム建設事業の役割一	<ul style="list-style-type: none"> 地域とともに安全・安心を築く利賀ダム建設事業を学ぶ 地域住民の生活を支える生活再建道路の工事監督を体験
福井県	敦賀市 敦賀港湾事務所	1	7月下旬～8月上旬	1週間	敦賀港の主要外郭施設(防波堤)の築造工事	<ul style="list-style-type: none"> 庄川橋梁鋼一桁橋+鋼非合成箱桁橋、豆谷橋梁(鋼中踏式ローゼアーチ橋)
	長野市 千曲川河川事務所	2	7月下旬～9月下旬	2週間	千曲川・犀川流域の治水事業 ～事業計画から工事・管理まで～	<ul style="list-style-type: none"> 日本一の幹川流路延長(367km)を誇る信濃川上流部の千曲川・犀川において 事業計画から工事・管理までの一連の取り組みから、事業の流れを学ぶ 環境に配慮した川づくりについて学ぶ
長野県	大町市 大町ダム管理所	1	7月中旬～9月中旬	1週間	下流域の安全と環境を守るダム管理	<ul style="list-style-type: none"> ダムの安全性及び機能を長期的に保持するための施設点検巡視 環境に配慮したダム放流効果の調査検証(水文観測) ダム管理諸量についてとりまとめ検証
	松本市 松本砂防事務所	2	7月下旬～8月下旬	1週間	荒れた山河に挑み、地域の安全・安心を守る砂防事業	<ul style="list-style-type: none"> 地域を土砂災害から守る砂防設備に関する工事監督等の体験 ～天然河川トンネル(隧通し)といとおし)の斜面崩壊対策工事等～ 土砂災害防止法に基づいた緊急調査の疑似体験 ～河運財産知識シミュレーション等～
福島県	会津若松市 阿賀川河川事務所	2	7月中旬～9月下旬	2週間	会津地域を潤す阿賀川流域の治水事業 ～阿賀川・大川ダムの工事・管理～	<ul style="list-style-type: none"> 阿賀川下流部河道拡幅事業や阿賀川弱小堤防対策事業の効果と学び工事監督を体験 堤防点検、河川巡回及び河川法許可の実務体験 大川ダムの効果及び管理の実務を学ぶ
岐阜県	飛騨市 神通川水系砂防事務所	1	7月上旬～9月上旬	1週間	神通川・高原川流域の安全と暮らしを守る砂防事業	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境と調和した砂防事業推進のための自然環境調査の体験 活火山焼岳山頂周辺の地形状況や火山噴出物、既設施設の調査を体験 砂防設備の点検及び砂防堆積工事監督体験

平成28年3月30日
大臣官房技術調査課
総合政策局公共事業企画調整課
国土技術政策総合研究所
国土地理院

平成28年度から i-Construction で建設現場が変わります！ 新たに導入する15の基準及び積算基準について ～平成28年4月からのICTの全面的な活用に向けて～

1. 国土交通省では、ICT土工を新年度から全面的に実施します。
2. このため、土工における調査・測量、設計、施工、検査のプロセスにおいて、現在の紙図面を前提とした基準類を変更し、3次元データによる15の新基準を平成28年4月より導入します。
3. また、ICT土工の活用に必要な経費を計上するための新たな積算基準を導入します。

1. 3次元データによる15の新基準は、以下のとおりです。

<調査・測量、設計>

- ① UAVを用いた公共測量マニュアル（案）【新規】
- ② 電子納品要領（工事及び設計）【改訂】
- ③ 3次元設計データ交換標準（同運用ガイドラインを含む）【新規】

<施工>

- ④ ICTの全面的な活用（ICT土工）の推進に関する実施方針【新規】
- ⑤ 土木工事施工管理基準（案）（出来形管理基準及び規格値）【改訂】
- ⑥ 土木工事数量算出要領（案）【改訂】
（施工履歴データによる土工の出来高算出要領（案）【新規】を含む）
- ⑦ 土木工事共通仕様書 施工管理関係書類（帳票：出来形合否判定総括表）【新規】
- ⑧ 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）【新規】
- ⑨ レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）【新規】

<検査>

- ⑩ 地方整備局土木工事検査技術基準（案）【改訂】
- ⑪ 既済部分検査技術基準（案）及び同解説【改訂】
- ⑫ 部分払における出来高取扱方法（案）【改訂】
- ⑬ 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）【新規】
- ⑭ レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）【新規】
- ⑮ 工事成績評定要領の運用について【改訂】

2. ICT土工の活用に必要な経費を計上するための新たな積算基準と発注方式は、以下のとおりです。

<積算基準>

- ・ ICT活用工事積算要領【新規】

<発注方式>

- ・規模の大きい企業を対象とする工事では、ICT活用施工を標準化
- ・地域企業を対象とする工事では、「手上げ方式」（施工者からの提案）を基本
- ・測量においても「発注者指定方式」と「手上げ方式」を活用、設計は「発注者指定方式」を活用

問い合わせ先

大臣官房技術調査課 TEL : 03-5253-8111 夜間直通 : 03-5253-8221 FAX : 03-5253-1536

(担当) ②関係、発注方式関係 (業務)	課長補佐	永田 耕之 (内線 22335)
(担当) ⑤関係	課長補佐	久内 伸夫 (内線 22357)
(担当) ⑥関係	事業評価・保全企画官	榎谷 有吾 (内線 22353)
(担当) ⑩⑪⑫⑬⑭⑮関係	工事監視官	山下 眞治 (内線 22306)
(担当) 発注方式関係 (工事)	課長補佐	竹下 正一 (内線 22334)
(担当) 発注方式関係 (業務)	課長補佐	神鳥 博俊 (内線 22352)

総合政策局公共事業企画調整課 TEL:03-5253-8111 夜間直通:03-5253-8285 FAX:03-5253-1556

(担当) ④⑤⑥⑧⑨、積算基準関係	課長補佐	山口 崇 (内線 24912)
-------------------	------	-----------------

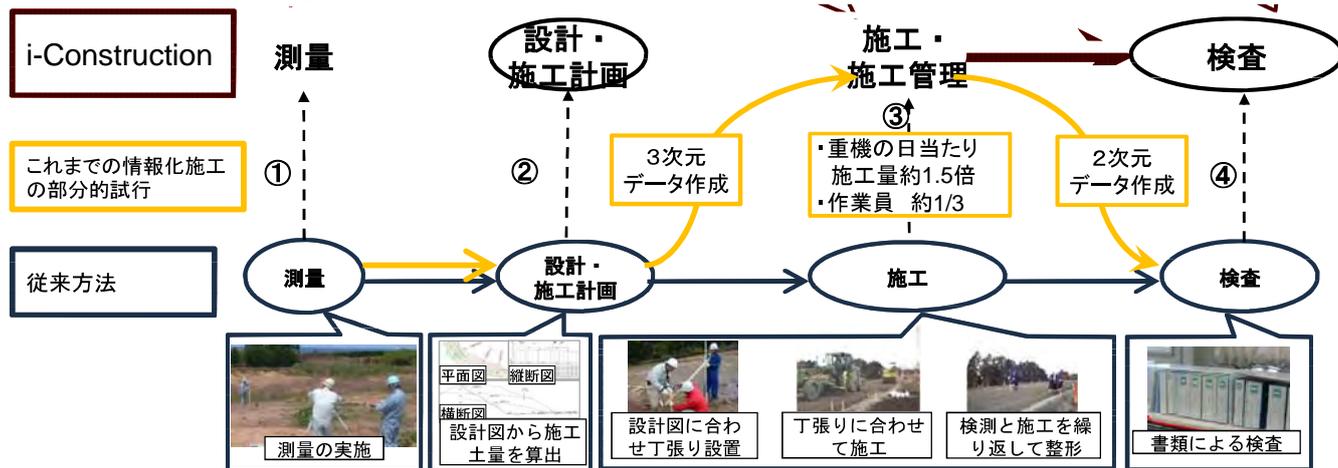
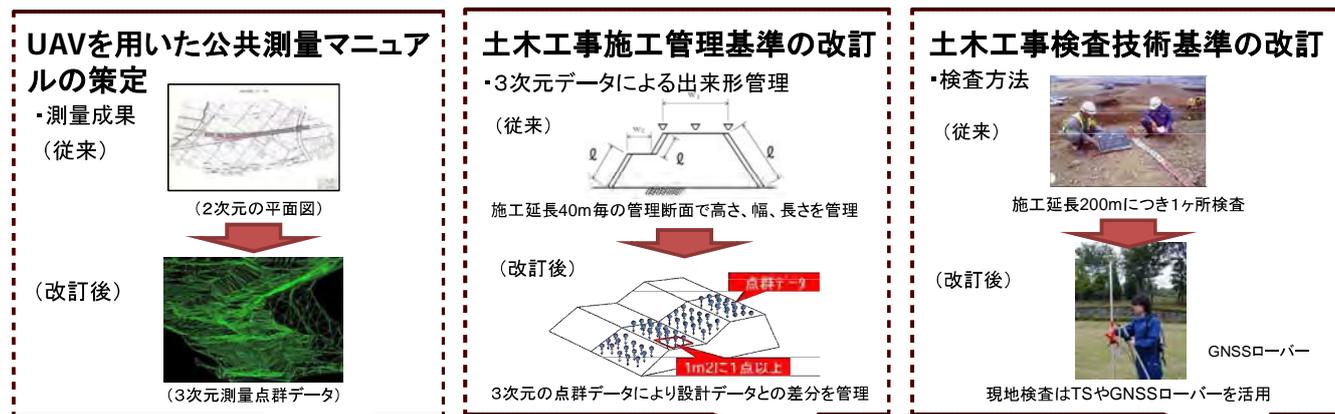
国土技術政策総合研究所メンテナンス情報基盤研究室

TEL: 029-864-2211 夜間直通: 029-864-7416 FAX: 029-864-3860

(担当) ③⑦関係	主任研究官	青山 憲明 (内線 3822)
(担当) ④⑤⑥⑧⑨、積算基準関係	主任研究官	近藤 弘嗣 (内線 3824)

国土地理院企画部 TEL:029-864-6472 FAX:029-864-1658

(担当) ①関係	専門調査官	鈴木 弘
----------	-------	------



ICT土工用の新たな積算基準

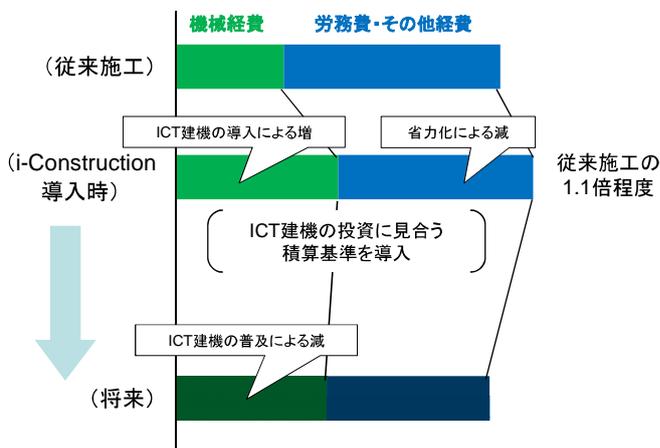
- ・ICT建機の普及に向け、ICT建設機械のリース料などに関する新たな積算基準を策定
- ・既存の施工パッケージ型の積算基準をICT活用工事用に係数等で補正する積算基準

※施工パッケージ型とは、直接工事費について施工単位ごとに機械経費、労務費、材料費を含んだ施工パッケージ単価を設定し積算する方式です。

《新たな積算基準のポイント》

- ①対象工種
 - ・土工(掘削、路体(築堤)盛土、路床盛土)
 - ・法面整形工
- ②新たに追加等する項目
 - ・ICT建機のリース料 (従来建機からの増分)
 - ・ICT建機の初期導入経費 (導入指導等経費を当面追加)
- ③従来施工から変化する項目
 - ・補助労務の省力化に伴う減
 - ・効率化に伴う日当たり施工量の増

路体(築堤)盛土(15,000m³)の場合の試算



※比較用の試算のため、盛土工のみで試算しています。実際の工事では、ICT建機で行わない土砂の運搬工等の工種を追加して工事発注がなされます。

新たに導入する15の新基準及び積算基準

	名称	新規	改訂	本文参照先(URL)
調査・測量、設計	1 UAVを用いた公共測量マニュアル(案)	○		http://psgv2.gsi.go.jp/koukyou/public/uav/index.html
	2 電子納品要領(工事及び設計)		○	http://www.cals-ed.go.jp/cr_point/ http://www.cals-ed.go.jp/cr_guideline/
	3 3次元設計データ交換標準(同運用ガイドラインを含む)	○		http://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bunva/cals/des.html
施工	4 ICTの全面的な活用(ICT土工)の推進に関する実施方針	○		http://www.mlit.go.jp/common/001124407.pdf
	5 土木工事施工管理基準(案)(出来形管理基準及び規格値)		○	http://www.mlit.go.jp/tec/sekisan/sekou/pdf/280330kouji_sekoukanrikijun01.pdf
	6 土木工事数量算出要領(案)(施工履歴データによる土工の出来高算出要領(案)を含む)	○	○	http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/sr/suryo.htm http://www.mlit.go.jp/common/001124406.pdf
	7 土木工事共通仕様書 施工管理関係書類(帳票:出来形合否判定総括表)	○		http://www.nilim.go.jp/japanese/standard/form/index.html
	8 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)	○		http://www.mlit.go.jp/common/001124402.pdf
	9 レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)	○		http://www.mlit.go.jp/common/001124404.pdf
検査	10 地方整備局土木工事検査技術基準(案)		○	http://www.mlit.go.jp/tec/sekisan/sekou.html
	11 既済部分検査技術基準(案)及び同解説		○	http://www.mlit.go.jp/tec/sekisan/sekou.html
	12 部分払における出来高取扱方法(案)		○	http://www.mlit.go.jp/tec/sekisan/sekou.html
	13 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)	○		http://www.mlit.go.jp/common/001124403.pdf
	14 レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)	○		http://www.mlit.go.jp/common/001124405.pdf
	15 工事成績評定要領の運用について		○	http://www.mlit.go.jp/tec/sekisan/sekou.html
積算基準	ICT活用工事積算要領	○		http://www.mlit.go.jp/common/001124408.pdf

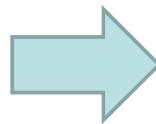
H28年度からi-Constructionで建設現場が変わります！

公共測量マニュアルや監督・検査基準などの15の新基準、及びICT建機のリース料を含む新積算基準を平成28年度より導入。

ドローンによる**測量**が拡大



従来測量



ドローンを用いた測量マニュアルの導入により、**3次元測量が拡大**

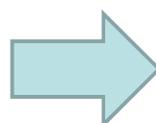


レーザ測量等に加え、ドローンによる3次元測量も可能に

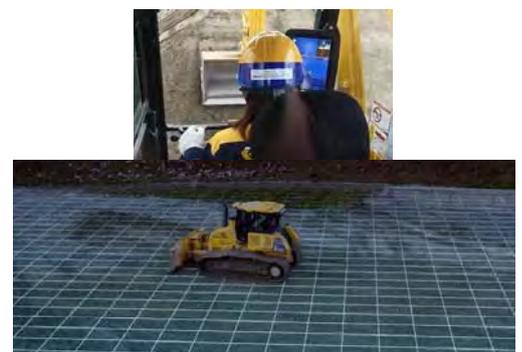
ICT建機による**施工**が拡大



丁張りによる施工



ICT土工用積算基準の導入により、**ICT建機による施工が拡大**



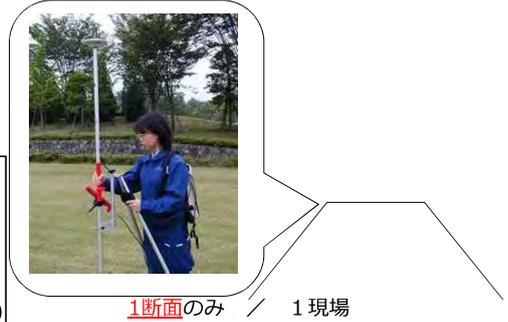
ICT建機による施工

検査日数が大幅に短縮

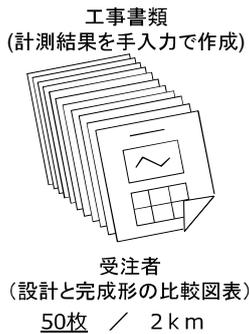


監督・検査要領（土工編）（案）等の導入により、
検査にかかる日数が約1/5に短縮
 (2kmの工事の場合 10日→2日へ)

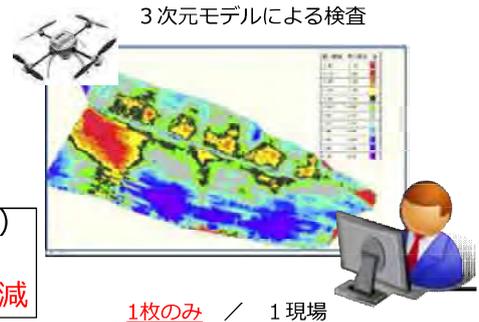
GNSSローバー等で計測



検査書類が大幅に削減



監督・検査要領（土工編）（案）等の導入により、
検査書類が1/50に削減



○i-Constructionの目指すべきもの

i-Constructionの3つのトップランナー施策による生産性向上効果は、ICT技術の全面的な活用による省力化や工事時期の平準化などにより、1人あたりの生産性が**約5割向上**。

i-Constructionの目指すもの

○生産性を5割向上させることで、

- ・ 企業の経営環境を改善
- ・ 現場で働く方々の賃金水準の向上
- ・ 安定した休暇の取得
- ・ 安全な現場

を実現。

○労働者数が減っても生産性が向上すれば、 経済成長を確保することが可能。

UAVを用いて撮影した空中写真から3次元点群データを作成するための標準的な手法を定めた測量マニュアルを作成

①UAVを用いた写真測量を公共測量へ導入

狭い範囲の図面向け
従来の測量機器やGNSS
を利用した現地測量



← UAVを用いた写真測量 →

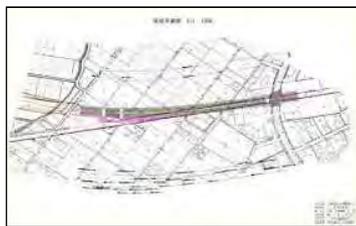


UAVの安全な飛行を確保するための安全基準(案)の公表もあわせて実施
※レーザ測量等に加え、ドローンによる3次元測量も可能に

広い範囲の図面向け
有人航空機を利用した
空中写真測量



②公共測量の成果にUAV写真による3次元点群データを追加



従来の2次元図面



詳細な3次元点群データ

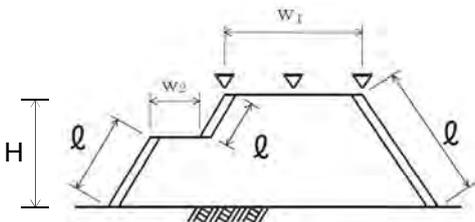
導入効果:小回りがきくUAVや3次元化の自動ソフトの導入により、短時間で効率的に3次元点群データが作成可能

3次元データによる出来形管理

3次元計測により計測された3次元点群データによる効率的な出来形管理を導入

従来

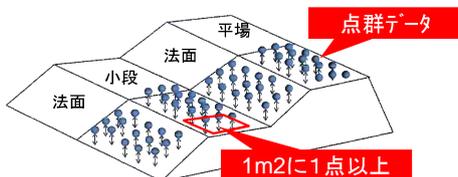
既存の出来形管理基準では、代表管理断面において高さ、幅、長さを測定し評価



<例：道路土工（盛土工）>
測定基準：測定・評価は施工延長40m毎
規格値：基準高(H)：±5cm
法長(l)：-10cm
幅(w)：-10cm

i-Construction

UAVの写真測量等で得られる3次元点群データからなる面的な竣工形状で評価



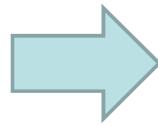
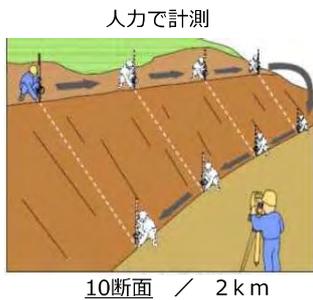
<例：道路土工（盛土工）>
測定基準：測定密度は1点/m²以上、評価は平均値と全測点
規格値：設計面との標高較差（設計面との離れ）
平地 平均値：±5cm 全測点：±15cm
法面 平均値：±8cm 全測点：±19cm
※法面には小段含む

従来と同等の出来形品質を確保できる面的な測定基準・規格値を設定

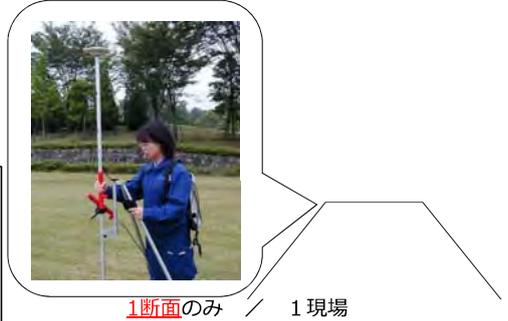
ICT検査

ICT機器を活用し、3次元モデルを用いた検査に対応するように要領・基準を改定。
 ⇒受発注者双方にとって、検査の大幅な省力化を図る。

検査日数が大幅に短縮

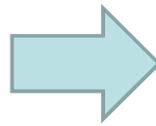
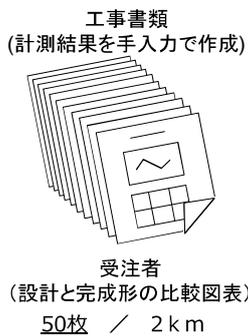


GNSローバー等で計測

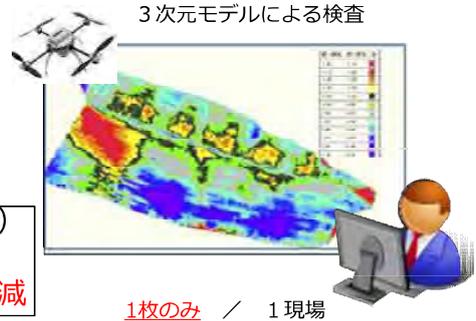


監督・検査要領（土工編）
（案）等の導入により、
検査にかかる日数が
約1 / 5に短縮
（2kmの工事の場合 10日→2日へ）

検査書類が大幅に削減



3次元モデルによる検査



監督・検査要領（土工編）
（案）等の導入により、
検査書類が1 / 50に削減

ICT活用工事の発注方式

～土工工事の全てをICT活用施工対応工事へ～

基本的考え方

- 大企業を対象とする工事では、ICT活用施工を標準化
- 地域企業を対象とする工事では、「手上げ方式」（施工者からの提案）から順次標準化

1. 3つの方式で実施

- ① 発注者指定型：ICT活用施工を前提として発注
- ② 施工者希望Ⅰ型：総合評価においてICT活用施工を加点評価
- ③ 施工者希望Ⅱ型：契約後、施工者からの提案・協議を経てICT活用施工を実施

2. 新設するICT活用工事積算を適用

※施工者希望Ⅰ・Ⅱ型は、施工者からの提案・協議を経て設計変更により適用

3. ICT活用施工を工事成績評定において評価

【発注方式のイメージ】

